

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要 (詳細は右表を参照)

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 前月比

- ・豪州、ウクライナで上方修正されたものの、EU、南アフリカで下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

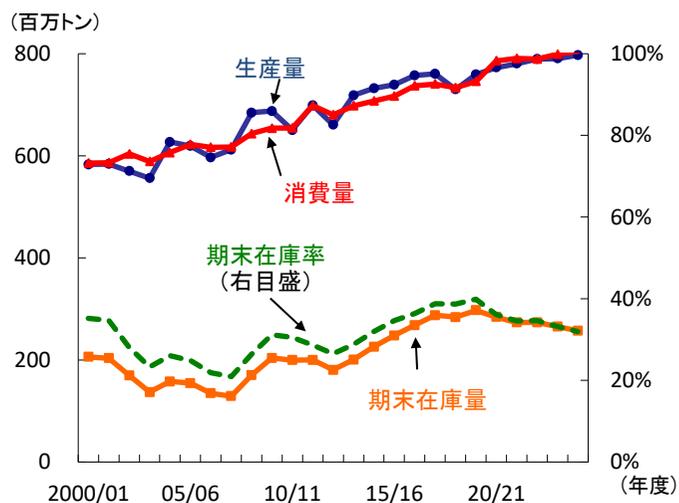
消費量 前年度比 前月比

- ・EU、ウクライナ等で下方修正されたものの、フィリピン、ベトナム等で上方修正され、前月から上方修正された。

輸出量 前年度比 前月比

- ・EUで下方修正されたものの、豪州、カナダ、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料:USDA「PS&D」(2024. 9. 12) をもとに農林水産省にて作成

◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	789.5	790.5	796.9	▲ 1.4	0.8
消費量	789.4	798.9	804.9	0.9	0.7
うち飼料用	152.7	160.1	151.9	0.8	▲ 5.1
輸出量	221.8	221.5	216.5	1.6	▲ 2.2
輸入量	213.1	222.3	210.3	1.9	▲ 5.4
期末在庫量	273.6	265.3	257.2	0.6	▲ 3.0
期末在庫率	34.7%	33.2%	32.0%	0.0	▲ 1.2

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 September 2024)

○ 2024/25年度の世界の小麦の生産量(796.9百万トン) (単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸出量(216.5百万トン) (単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸入量(210.3百万トン) (単位: %)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 > 2024/25 年度の輸出量は 22.5 百万トンに回復の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 53.9 百万トンと、収穫面積及び単収が前年度より増加することから前年度と比べ 9.4%増、過去 5 年平均（48.2 百万トン）と比べても 11.8%増となる見込み。

品種別には、ハード・レッド・ウインター（HRW）が 21.1 百万トン（前年度比 29.1%増）、ハード・レッド・スプリング(HRS)が 13.6 百万トン（同 6.6%増）、ホワイト小麦（WW）が 7.8 百万トン（同 22.7%増）、デュラム小麦が 2.1 百万トン（同 29.6%増）と、前年度と比べ増加する一方で、ソフト・レッド・ウインター（SRW）は収穫面積の減少を受け 9.3 百万トン（同 23.8%減）となる見込み。

同「Crop Progress」（2024.9.16）によれば、9 月 15 日現在、春小麦の収穫進捗率は 92%と前年同期の 91%、過去 5 年平均の 90%をいずれも上回っている。なお、2024/25 年度の冬小麦の収穫は完了している。また、2025/26 年度の冬小麦の作付けが始まっており、作付進捗率は 14%と前年同期及び過去 5 年平均の 13%をいずれも上回っている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 22.5 百万トンと、増産による輸出余力の増加に加え、EU、ロシア及びウクライナの減産による輸出余力の減少等を受け、前年度と比べ 16.7%増となるものの、過去 5 年平均（23.0 百万トン）比では 2.4%減となる見込み。

2024/25 年度のうち 2024 年 6 月～7 月の輸出量は、342.5 万トンと前年同期比 21.2%増となっており、輸出先国はメキシコ（19.0%）、日本（12.8%）、韓国（11.6%）の順で中国のシェア（2.2%）が減少している。

9 月 10 日時点の米国産小麦の FOB 価格は、EU、ロシア及びウクライナの生産量減少と米国産小麦の需要改善等を受け全ての品種が前月に比べ上昇しており、主要小麦輸出国（米国、アルゼンチン、豪州、カナダ、EU 及びロシア）の FOB 価格を比較した場合、米国産が一番高い価格（270 ドル/トン）となっており、価格競争力が低下している。

2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく 22.5 百万トンと、前年度と比べ 17.9%増加し 4 年ぶりの高水準となる見込み。

小麦—米国（冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割）

(単位: 百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年6月～25年5月)		
			予 測 値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	44.9	49.3	53.9	-	9.4
消 費 量	30.3	30.2	30.9	-	2.3
うち飼料用	2.0	2.3	3.0	-	28.3
輸 出 量	20.7	19.2	22.5	-	16.7
輸 入 量	3.3	3.8	2.9	-	▲ 23.9
期末在庫量	15.5	19.1	22.5	-	17.9
期末在庫率	30.4%	38.6%	42.2%	-	3.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	14.36	15.08	15.35	-	1.8
単収(t/ha)	3.13	3.27	3.51	-	7.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(12 September 2024)

図 米国の小麦の生産量・輸出量・期末在庫量の推移



表 米国産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量: 万トン、シェア: %)

2024/25年度 (2024年6月～7月)			2023/24年度 (2023年6月～2024年5月)			2022/23年度 (2022年6月～2023年5月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
メキシコ	65.0	19.0	メキシコ	325.8	17.4	メキシコ	365.4	18.0
日本	43.9	12.8	フィリピン	274.5	14.7	フィリピン	206.1	10.2
韓国	39.8	11.6	中国	216.9	11.6	日本	204.1	10.1
フィリピン	27.8	8.1	日本	197.1	10.5	韓国	147.2	7.3
台湾	15.1	4.4	韓国	130.1	6.9	中国	120.6	6.0
ナイジェリア	12.4	3.6	台湾	110.5	5.9	ナイジェリア	81.9	4.0
その他	138.6	40.5	その他	618.1	33.0	その他	901.7	44.5
計	342.5	100.0	計	1,873.0	100.0	計	2,027.0	100.0

資料: USDA「Global Agricultural Trade System」をもとに農林水産省
で作成

< カナダ > 2024/25 年度の生産量は前月から下方修正され 34.3 百万トンの見込み (AAFC)

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省 (AAFC) 「Outlook for Principal Field Crops」 (2024.9.25) によれば、2024/25 年度の実産量は、収穫面積の引下げを受け前月予測から 6 万トン下方修正され 34.3 百万トンとなるものの、干ばつの影響により減産となった前年度に比べ 4.1% 増となる見込み。種類別の生産量は、普通小麦は、収穫面積の引下げを受け前月予測から 6 万トン下方修正され 28.3 百万トン (前年度比 2.1% 減)。デュラム小麦は、収穫面積の引下げを受け前月予測から 1 万トン下方修正され 6.0 百万トン (同 47.6% 増) となる見込み。

主要生産州の各州政府によれば、サスカチュワン州では、9 月 9 日現在、乾燥した天候により収穫が進展しており、収穫進捗率は、冬小麦 92%、デュラム小麦 83%、春小麦 60% となっている。アルバータ州では、9 月 10 日現在、乾燥した天候により平年より早いペースで収穫が進展し、収穫進捗率は、冬小麦は収穫が完了し、春小麦が 70%、デュラム小麦が 72% となっている。マニトバ州の 9 月 9 日現在の収穫進捗率は、冬小麦 99% (前年同期 100%)、春小麦 68% (同 85%) と、春小麦の収穫進捗が降雨等の影響により遅れている。春小麦の作柄は概ね良好であるが、一部赤かび病等による品質低下がみられる。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 25.3 百万トンと、前年度と比べ 0.2% 増となる見込み。種類別には、普通小麦が前年度に比べ 5.8% 減少し 20.5 百万トンとなるものの、デュラム小麦は生産量の回復による輸出余力の増加と北アフリカ及び欧州の一部からの需要を受け、前年度に比べ 38.4% 増加し 4.8 百万トンの見込み。

USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、期首在庫量の引上げによる輸出余力の増加を受け前月予測から 1.0 百万トン上方修正され 26.0 百万トンと、前年度に比べ 2.2% 増、過去 5 年平均 (23.3 百万トン) と比べても 11.4% 増となる見込み。

カナダ穀物委員会 (CGC) によれば、2023/24 年度 (2023 年 8 月～2024 年 7 月) の輸出量は、2,458.9 万トンと前年度比 0.6% 減。種類別には、普通小麦が前年度比 7.6% 増の 2,115.3 万トンとなっており、輸出先国は中国 310.3 万トン (14.7%)、インドネシア 251.9 万トン (11.9%)、日本 173.9 万トン (8.2%) の順。また、デュラム小麦は生産量の減少と豊作となったトルコとの競合により前年度比 32.3% 減の 343.5 万トンとなっており、輸出先国はアルジェリア 89.3 万トン (26.0%)、モロッコ 81.7 万トン (23.8%)、米国 46.2 万トン (13.5%) の順。AAFC によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、期首在庫量の引上げ等を受け前月予測から 2.3 百万トン上方修正され 5.1 百万トンと、前年度に比べ 10.2% 増となる見込み。

小麦—カナダ (春小麦を主に栽培)

(単位: 百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)		
			予測値、() は AAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	34.8	33.0	35.0 (34.3)	-	6.2
消費量	8.3	9.1	9.6 (8.7)	0.3	5.4
うち飼料用	3.2	4.0	4.5 (4.3)	0.5	12.2
輸 出 量	25.6	25.4	26.0 (25.3)	1.0	2.2
輸 入 量	0.6	0.6	0.6 (0.1)	-	▲ 1.8
期末在庫量	5.6	4.6	4.5 (5.1)	1.5	▲ 1.1
期末在庫率	16.6%	13.3%	12.7% (14.9%)	3.7	▲ 0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.10	10.70	10.60 (10.53)	-	▲ 0.9
単収(t/ha)	3.45	3.08	3.30 (3.26)	-	7.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (12 September 2024)、
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」 (25 September 2024)

表 カナダ産小麦の輸出量と輸出先国

○普通小麦 (輸出量: 万トン)

2023/24年度 (2023.8～2024.7)			2022/23年度 (2022.8～2023.7)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
中国	310.3	14.7%	中国	296.8	15.1%
インドネシア	251.9	11.9%	インドネシア	213.8	10.9%
日本	173.9	8.2%	日本	167.3	8.5%
バングラデシュ	172.7	8.2%	ペルー	148.3	7.5%
ペルー	137.3	6.5%	バングラデシュ	144.4	7.3%
その他	1,069.2	50.5%	その他	996.1	50.7%
計	2,115.3	100.0%	計	1,966.6	100.0%

○デュラム小麦 (輸出量: 万トン)

2023/24年度 (2023.8～2024.7)			2022/23年度 (2022.8～2023.7)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
アルジェリア	89.3	26.0%	イタリア	121.0	23.8%
モロッコ	81.7	23.8%	アルジェリア	120.8	23.8%
米国	46.2	13.5%	モロッコ	85.7	16.9%
イタリア	44.7	13.0%	米国	50.4	9.9%
日本	21.2	6.2%	チュニジア	32.5	6.4%
その他	60.4	17.6%	その他	96.8	19.1%
計	343.5	100.0%	計	507.3	100.0%

資料: カナダ穀物委員会のデータをもとに農林水産省で作成

< 豪州 > 2024/25 年度の生産量は上方修正され 31.8 百万トンの見込み (ABARES)

【生育・生産状況】豪州農業資源経済科学局 (ABARES) 「Australian Crop Report」(2024.9.3) によれば、2024/25 年度の実生産量は、6 月予測から収穫面積及び単収が上げられたことを受け、2.7 百万トン上方修正され 31.8 百万トンの見込み。エルニーニョ現象の影響による降雨不足のために土壌水分不足だった前年度から収穫面積及び単収が増加 (収穫面積は前年度比 5.2%増、単収は同 16.6%増) することから、前年度と比べ 22.6%増、過去 5 年平均 (29.8 百万トン) と比べても 6.7%増となる見込み。

州別の生産量は、ウェスタンオーストラリア州 (WA 州) が 10.4 百万トン (前年度比 35.1%増)、ニューサウスウェールズ州 (NSW 州) が 11.0 百万トン (同 55.0%増)、クイーンズランド州 (QLD 州) が 2.1 百万トン (同 94.4%増) と、降雨に恵まれたことから前年度に比べ増加する一方、サウスオーストラリア州 (SA 州) が 4.3 百万トン (同 10.4%減)、ビクトリア州 (VIC 州) が 4.0 百万トン (同 23.6%減) と、乾燥が続いていることから前年度に比べ減少する見込み。

USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、収穫面積及び単収の上げを受け前月予測から 2.0 百万トン上方修正され 32.0 百万トンと、前年度と比べ 23.3%増、過去 5 年平均 (29.8 百万トン) と比べても 7.3%増となる見込み。同「World Agricultural Production」(2024.9.12) によれば、生産州のうち、NSW 州及び QLD 州では作付面積の増加と作付け時期の土壌水分量が平年を上回っていたことから、特に良好な生産となる見込みである一方、SA 州及び VIC 州西部においては乾燥が続いており適切な降雨が必要となっている。

【貿易情報・その他】ABARES によれば、2024/25 年度の輸出量は、生産量の上方修正による輸出余力の増加等を受け 6 月予測から 1.9 百万トン上方修正され 21.8 百万トンと、前年度と比べ 10.0%増となるものの、過去 5 年平均 (22.4 百万トン) と比べると 2.7%減となる見込み。

2023/24 年度のうち 2023 年 10 月～2024 年 7 月までの輸出量は 1,759.0 万トンと、乾燥により生産量が減少したことから前年同期 (2,812.4 万トン) に比べ 37.5%減少している。同期間の輸出先国は、中国 374.0 万トン (21.3%)、インドネシア 284.4 万トン (16.2%)、フィリピン 194.3 万トン (11.0%) の順となっており、前年同期と同様に中国のシェアが高くなっている。

2024/25 年度の期末在庫量は、6 月予測から 0.8 百万トン上方修正され 4.1 百万トンと、前年度に比べ 47.8%増となる見込み。

小麦一豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位: 百万トン)

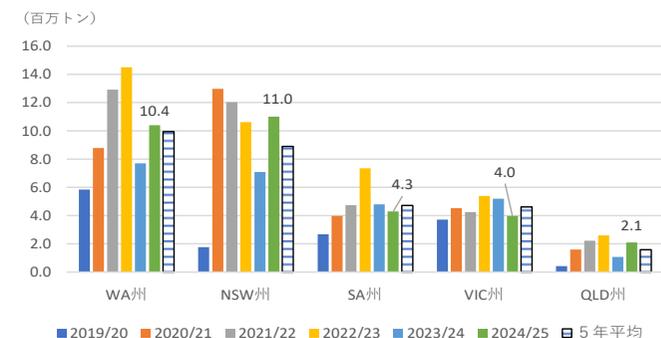
年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、() は ABARES	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	40.6	26.0	32.0 (31.8)	2.0	23.3
消費量	8.0	7.5	7.5 (8.7)	0.5	-
うち飼料用	4.5	4.0	4.0	0.5	-
輸出量	31.8	20.0	25.0 (21.8)	2.0	25.0
輸入量	0.2	0.2	0.2	-	▲ 9.1
期末在庫量	4.4	3.1	2.8 (4.1)	▲ 1.0	▲ 9.8
期末在庫率	11.0%	11.1%	8.5% (13.5%)	▲ 4.1	▲ 2.6

(参考)

収穫面積 (百万ha)	13.05	12.37	13.00 (13.01)	0.20	5.1
単収 (t/ha)	3.11	2.10	2.46 (2.45)	0.12	17.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2024)
ABARES 「Australian Crop Report」(3 September 2024)

図 豪州の小麦の州別生産量の推移



資料: ABARES「Australian Crop Report」(2024.9.3) をもとに農林水産省で作成

表 豪州産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量: 万トン, シェア: %)

2023/24年度 (2024年7月)		2023/24年度 (2023年10月～2024年7月)		2022/23年度 (2022年10月～2023年7月)				
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア			
インドネシア	28.2	18.8	中国	374.0	21.3	中国	702.0	25.0
イエメン	21.9	14.7	インドネシア	284.4	16.2	インドネシア	412.1	14.7
フィリピン	20.9	14.0	フィリピン	194.3	11.0	フィリピン	267.8	9.5
南アフリカ	11.4	7.6	イエメン	141.9	8.1	ベトナム	251.6	8.9
韓国	11.2	7.5	韓国	107.7	6.1	韓国	245.5	8.7
日本	10.3	6.9	日本	103.7	5.9	タイ	187.1	6.7
その他	45.7	30.5	その他	553.1	31.4	その他	746.2	26.5
計	149.6	100.0	計	1,759.0	100.0	計	2,812.4	100.0

資料: ABARES 「Trade dashboard」 をもとに農林水産省で作成

< EU27 > 2024/25年度の生産量は前年度比7.2%減、輸出量は同26.1%減（欧州委員会）

【生育・生産状況】欧州委員会（EC）「EU Cereals Balance Sheets」（2024.8.29）によれば、2024/25年度の生産量は、フランス等で生産量が下方修正されたことにより前月予測から4.8百万トン下方修正され123.0百万トンと、2023年秋の多雨で冬小麦の作付けが困難となったほか、生育期間を通じた降雨過多等により収穫面積及び単収が減少することを受け、前年度比7.2%減、過去5年平均（133.4百万トン）と比べても7.8%減となる見込み。このうち、普通小麦は前月予測から4.7百万トン下方修正され116.1百万トンと、前年度比7.5%減、過去5年平均比でも7.8%減となる見込み。国別にはスペインが干ばつからの回復により前年度比85.1%増の6.5百万トンとなる一方、フランスが降雨過多等を受け同24.8%減の26.1百万トン、ドイツも同7.9%減の19.5百万トンとなる見込み。デュラム小麦は前月予測から0.1百万トン下方修正され6.9百万トンと、前年度比1.9%減、過去5年平均比でも8.0%減となる見込み。国別にはスペインが干ばつからの回復により前年度比102.5%増の0.9百万トンとなる一方、イタリアが乾燥により同14.5%減の3.1百万トンとなる見込み。USDAによれば、2024/25年度の実績は、収穫面積及び単収の引下げを受け前月予測から4.0百万トン下方修正され124.0百万トンと、前年度と比べ8.1%減、過去5年平均（134.6百万トン）と比べても7.9%減となる見込み。同「Wheat Outlook」（2024.9.16）によれば、EUの生産量は欧州北西部で降雨が続き小麦の生長が妨げられたことなどから、ドイツ、フランス、ポーランド等の生産量が減少し2018/19年度以来、最低水準になる見込み。特にフランスでは、1987/88年度以来最低の生産量になると予想されるとともに、小麦の品質低下も懸念されている。

【貿易情報・その他】ECによれば、2024/25年度の輸出量は、主要輸出国であるフランス等での減産等を受け前月予測から6.0百万トン下方修正され26.7百万トンと、前年度比26.1%減となる見込み。2023/24年度（2023年7月～2024年6月）の輸出量は、3,615.5万トンと、前年度比7.8%増。種類別には、普通小麦が3,512.7万トンと、前年度比7.5%増。デュラム小麦が102.7万トンと、同18.7%増。2024/25年度の輸入量は、ウクライナの生産量の引上げ等を受け前月予測から1.0百万トン上方修正され9.0百万トンとなるものの、ウクライナの減産で同国からの輸入が減少すること等から前年度比25.4%減となる見込み。2023/24年度の輸入量は、1,208.7万トンと、前年度比3.7%増。種類別には、普通小麦が957.6万トンと、前年度比0.4%減。デュラム小麦が251.1万トンと、同23.3%増。2024/25年度の期末在庫量は、前月予測から1.6百万トン上方修正され13.0百万トンとなるものの、供給量の減少から前年度と比べ28.5%減となる見込み。

小麦－EU27（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、()はEC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	134.3	134.9	124.0 (123.0)	▲ 4.0	▲ 8.1
消費量	109.0	111.0	108.8 (110.4)	▲ 1.5	▲ 2.0
うち飼料用	45.0	46.5	44.5 (45.6)	▲ 1.5	▲ 4.3
輸出量	35.1	37.9	31.5 (26.7)	▲ 2.5	▲ 16.8
輸入量	12.2	12.6	11.5 (9.0)	▲ 0.5	▲ 8.9
期末在庫量	16.0	14.7	9.9 (13.0)	▲ 0.2	▲ 32.4
期末在庫率	11.1%	9.8%	7.1% (9.5%)	0.0	▲ 2.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	24.40	24.31	23.00 (22.68)	▲ 0.10	▲ 5.4
単収(t/ha)	5.50	5.55	5.39 (5.42)	▲ 0.15	▲ 2.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2024)
EC 「EU Cereals Balance Sheets」(29 August 2024)

図 EU27の普通小麦及びデュラム小麦生産量の推移

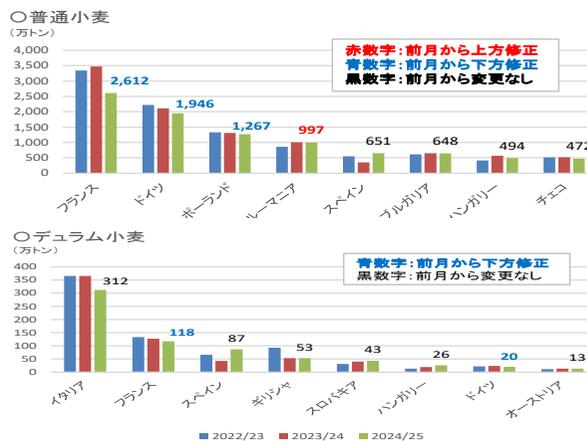


図 EU27の小麦の輸出量及び輸入量

○輸出量					○輸入量				
国名	2023/24年度 (2023.7～2024.6)		2022/23年度 (2022.7～2023.6)		国名	2023/24年度 (2023.7～2024.6)		2022/23年度 (2022.7～2023.6)	
	輸出量 (万トン)	シェア (%)	輸出量 (万トン)	シェア (%)		輸入量 (万トン)	シェア (%)	輸入量 (万トン)	シェア (%)
モロッコ	489.1	13.5%	468.8	14.0%	ウクライナ	647.3	53.6%	614.6	52.7%
アルジェリア	393.7	10.9%	428.6	12.8%	カナダ	138.5	11.5%	189.0	16.2%
ナイジェリア	348.9	9.7%	294.9	8.8%	ロシア	82.1	6.8%	36.4	3.1%
中国	237.7	6.6%	108.0	3.2%	トルコ	76.8	6.4%	0.1	0.0%
エジプト	175.0	4.8%	181.9	5.4%	モルドバ	73.6	6.1%	32.2	2.8%
サウジアラビア	155.4	4.3%	196.3	5.9%	カザフスタン	56.3	4.7%	35.0	3.0%
その他	1,815.7	50.2%	1,676.6	50.0%	その他	134.0	11.1%	258.2	22.2%
合計	3,615.5	100.0%	3,355.1	100.0%	合計	1,208.7	100.0%	1,165.4	100.0%

資料：EC「EU trade for cereals」(2024.8.29) をもとに農林水産省で作成

< ロシア > 2024/25 年度の輸出量は 48.0 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量（クリミア地域分を含まず）は、前月予測からの変更はなく 83.0 百万トンと、前年度と比べ 9.3%減となるものの、過去 5 年平均（83.5 百万トン）と比べれば 0.6%減に留まる見込み。種類別には、冬小麦が 57.5 百万トンと、5 月の霜害とそれに続く高温乾燥により前年度に比べ 10.2%減。春小麦も 25.5 百万トンと、霜害と高温乾燥により同 7.3%減となる見込み。

ロシア統計庁によれば、2024/25 年度の作付面積は 2,850.6 万ヘクタール（前年度比 4.2%減）で、種類別には冬小麦が 1,613.4 万ヘクタール（同 3.1%増）、春小麦が霜害による大豆、菜種等への作付けの転換により 1,237.2 万ヘクタール（同 12.4%減）となっている。

ロシア農業省によれば、9 月 6 日現在、小麦全体（冬小麦及び春小麦）の収穫進捗率は前年同期並みの 70%で、6,781 万トンが収穫済みとなっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 48.0 百万トンと、史上最高となった前年度に比べ 13.5%減となる見込み。他方で、競合する EU 及びウクライナの小麦生産量も減少することから、両国に比べ引き続き価格競争力を維持する可能性が高いと予想されており、過去 5 年平均（42.2 百万トン）に比べ 13.7%増となる見込み。

現地情報会社によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～8 月の輸出量は、887.7 万トンと、前年同期 949.5 万トンに比べ 6.5%減となっている。輸出先国別には、エジプト 120.6 万トン（13.6%）、トルコ 62.8 万トン（7.1%）、バングラデシュ 61.9 万トン（7.0%）、アルジェリア 48.5 万トン（5.5%）、ケニア 45.3 万トン（5.1%）の順。引き続き、アフリカや中東向けの輸出が多くなっている。

USDA によれば、9 月 10 日時点の FOB 価格は、ロシア産は前月に比べ 4 ドル/トン下落し 218 ドル/トンとなり、主要小麦輸出国（米国、アルゼンチン、豪州、カナダ及び EU）の FOB 価格を比較した場合、ロシア産は引き続き他国産と比べ高い価格競争力を維持している。なお、ロシア政府は輸出関税の算定基準となる基準価格を 7 月 3 日以降 1 万 7,000 ㏩から 1 万 8,000 ㏩に引上げており、これにより実質的に輸出価格は下落し、ロシア産の価格競争力が更に増している可能性がある。

2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく 6.7 百万トンと、前年度に比べ 33.9%減となる見込み。

小麦－ロシア（主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培）

(単位: 百万トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	92.0	91.5	83.0 (81.8)	-	▲ 9.3
消費量	41.0	40.5	38.8 (39.1)	-	▲ 4.3
うち飼料用	18.0	17.5	16.0 (16.0)	-	▲ 8.6
輸出量	49.0	55.5	48.0 (43.2)	-	▲ 13.5
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.1)	-	-
期末在庫量	14.4	10.2	6.7 (9.3)	-	▲ 33.9
期末在庫率	16.0%	10.6%	7.8% (11.3%)	-	▲ 2.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.00	28.83	28.00 (27.73)	-	▲ 2.9
単収(t/ha)	3.17	3.17	2.96 (2.95)	-	▲ 6.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 August 2024)

図 ロシア産小麦の月別輸出量の推移

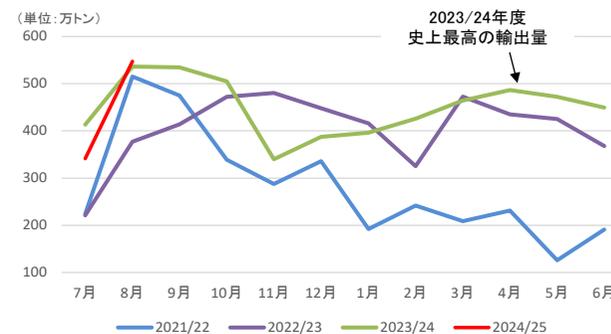


表 ロシア産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量: 万トン、シェア: %)

2024/25年度 (2024年8月)			2024/25年度 (2024年7月～8月)			2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
エジプト	78.2	14.3	エジプト	120.6	13.6	エジプト	868.3	16.0
トルコ	53.1	9.7	トルコ	62.8	7.1	トルコ	691.9	12.8
アルジェリア	39.7	7.3	バングラデシュ	61.9	7.0	バングラデシュ	350.2	6.5
バングラデシュ	36.6	6.7	アルジェリア	48.5	5.5	アルジェリア	236.8	4.4
イスラエル	26.4	4.8	ケニア	45.3	5.1	サウジアラビア	224.8	4.2
サウジアラビア	25.2	4.6	サウジアラビア	44.0	5.0	カザフスタン	222.2	4.1
ベトナム	24.7	4.5	イスラエル	41.8	4.7	パキスタン	213.0	3.9
その他	262.8	48.1	その他	462.8	52.1	その他	2,602.8	48.1
計	546.7	100.0	計	887.7	100.0	計	5,410.0	100.0

資料: 現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

<ウクライナ> 2024/25年度の生産量は上方修正され22.3百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の実産量（クリミア地域分を含む）は、単収が引上げられたことを受け前月予測から0.7百万トン上方修正され22.3百万トンとなるものの、3月以降、降水量が平年を下回り乾燥が続いた影響により前年度に比べ3.0%減、ロシアのウクライナ侵攻前の過去5年平均（2017/18～2021/22年度、27.9百万トン）と比べても20.1%減となる見込み。

ウクライナ国家統計庁（2024.8.30）によれば、2024/25年度の作付面積は490.2万ヘクタールと、前年度と比べ4.9%増。このうち、冬小麦は472.9万ヘクタールと、同5.5%増。春小麦は17.4万ヘクタールと、同10.0%減。ウクライナ農業政策食料省（2024.9.5）によれば、2024/25年度の冬小麦及び春小麦の収穫は完了しており、収穫面積は486.7万ヘクタール、収穫量は2,185.9万トンとなる見込み。また、2025/26年度の冬小麦の作付けが始まっており、作付予定面積447.9万ヘクタールに対し作付進捗率は2%と前年同期の5%に比べ遅れている。

【貿易状況・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、生産量の上方修正による輸出余力の増加等を受け前月予測から1.0百万トン上方修正され15.0百万トンとなるものの、生産量の減少等により前年度と比べ19.3%減、ロシアのウクライナ侵攻前の過去5年平均（18.1百万トン）と比べても17.1%減となる見込み。

現地情報会社によれば、8月20日、ウクライナ政府は小麦等の適正な輸出を確保するため最低輸出価格の承認に関する決議を採択した。最低輸出価格は毎月10日までに承認・公表され、当該価格に対し最大10%の減まで（最低輸出価格の90%以上の価格は輸出可能）認められる。また、9月3日、ウクライナ農業政策食料省は穀物市場関係者と覚書の付属書を締結し、2024/25年度の実産量の輸出上限は1,620万トンに設定された。

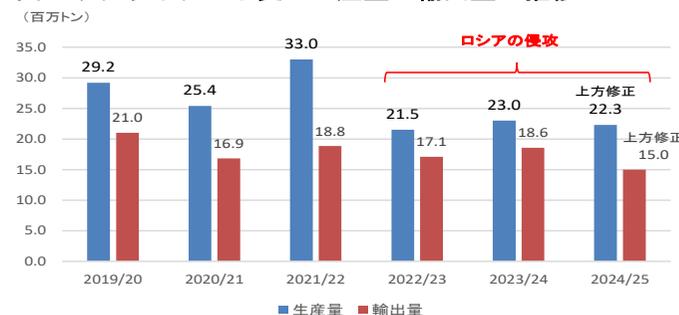
2024/25年度のうち2024年7月～8月の輸出量は378.3万トンと、前年同期202.7万トンに比べ86.6%増で、輸出先国は前年度とほぼ同様でスペイン、北アフリカ諸国及び東南アジアが中心。輸出量の増加の要因は、2023年7月のロシアの黒海穀物イニシアティブ離脱を受け輸出量が減少していたことや2024/25年産の収穫が平年よりも早かったことによるもの。USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、生産量の上方修正等を受け前月予測から0.04百万トン上方修正され1.1百万トンと、前年度に比べ53.5%増となるものの、史上3番目に低い水準となる見込み。

小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)			
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生産量	21.5	23.0	22.3 (25.4)	0.7	▲ 3.0	
消費量	7.8	6.7	7.0 (10.0)	▲ 0.4	4.5	
うち飼料用	3.0	2.0	2.2 (2.0)	▲ 0.3	10.0	
輸出量	17.1	18.6	15.0 (15.0)	1.0	▲ 19.3	
輸入量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	33.3	
期末在庫量	2.9	0.7	1.1 (1.2)	0.04	53.5	
期末在庫率	11.8%	2.8%	5.0% (4.6%)	0.05	2.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	5.60	5.01	5.20 (6.17)	-	3.8	
単収(t/ha)	3.84	4.59	4.29 (4.11)	0.14	▲ 6.5	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 August 2024)

図 ウクライナの小麦の生産量・輸出量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.9.12)をもとに農林水産省で作成

表 ウクライナ産小麦の輸出量と輸出先国

2024/25年度 (2024年8月)		2024/25年度 (2024年7月～8月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)				
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア			
スペイン	49.2	22.0	スペイン	77.5	20.5	スペイン	589.9	32.0
インドネシア	42.8	19.1	インドネシア	60.6	16.0	エジプト	172.1	9.4
ベトナム	24	10.7	ベトナム	37.8	10.0	インドネシア	151.5	8.2
アルジェリア	19.1	8.5	アルジェリア	37.3	9.9	トルコ	107.8	5.9
エジプト	14.6	6.5	エジプト	36.1	9.5	ルーマニア	100.1	5.4
タイ	9.8	4.4	イエメン	16.6	4.4	パキスタン	81.4	4.4
ポルトガル	8.2	3.7	タイ	16.3	4.3	ベトナム	75.1	4.1
イエメン	8.1	3.6	チェコ	13.1	3.5	バングラデシュ	73.7	4.0
チェコ	7.9	3.5	レバノン	11.7	3.1	イタリア	67.7	3.7
イタリア	6.8	3.0	イタリア	11.5	3.0	アルジェリア	63.3	3.4
その他	33.4	14.9	その他	60.0	15.9	その他	358.0	19.5
合計	223.7	100.0	合計	378.3	100.0	合計	1,840.6	100.0

資料：APK-Inform Agencyのデータをもとに農林水産省で作成

< 中国 > 2024年1月～7月の輸入量は前年同期比15.6%増

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、前月予測からの変更はなく140.0百万トンと、前年度と比べ2.5%増、過去5年平均（135.8百万トン）と比べても3.1%増となり史上最高となる見込み。

中国国家気象センター「中国気象農業頻道」（2024.9.2）によれば、8月25日～8月31日における春小麦の生育状況は、登熟期から収穫期を迎えており収穫が進展している。なお、冬小麦の収穫は終了している。

中国国家统计局によれば、2024/25年度の小麦の作付面積は23.09百万ヘクタールと、前年度に比べ0.1%増（3.2万ヘクタール増）となる見込み。単収は5.99トン/ヘクタールと、前年度と比べ2.6%増。生産量は138.2百万トンと、前年度と比べ2.7%増となる見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の消費量は、前月予測からの変更はなく151.0百万トンと、経済成長による食生活の変化に伴い小麦粉需要が増加する一方、2023/24年度に飼料用グレード国産小麦が増加していたものが減少し飼料用消費量が減少することから、前年度と比べ1.6%減となるものの、過去5年平均（146.1百万トン）と比べると3.4%増となる見込み。

2024/25年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく12.0百万トンと、史上最高の生産量となり国内需給が緩和することから、前年度に比べ12.0%減となる見込み。

中国海関統計によれば、2024年1月～7月までの輸入量は1,008.0万トンと、前年同期に比べ15.6%増となっている。輸入先別には、豪州329.9万トン（32.7%）、フランス229.7万トン（22.8%）、カナダ206.5万トン（20.5%）、米国174.9万トン（17.3%）の順となっており、当該4か国で輸入シェアの90%以上を占めている。豪州の輸入シェアは、2023/24年度の減産に伴う豪州産の相対的な価格競争力の低下等を受け前年同期の63.7%から32.7%と大きくシェアを減らしている一方で、フランス及び米国が大きくシェアを伸ばしている。

現地情報会社によれば、国内産小麦（広州黄埔港の高品質小麦）と外国産小麦（米国メキシコ湾出しの硬質系小麦（関税割当枠内））の価格を比較した場合、2023年8月以降、2023/24年産の収穫前の降雨で国内産小麦の品質が低下し高品質小麦の需給が逼迫したことから、国内産小麦の価格が外国産小麦を上回っている。USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく134.5百万トンと、前年度並みとなる見込み。

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	137.7	136.6	140.0 (140.0)	-	2.5
消費量	148.0	153.5	151.0 (146.8)	-	▲1.6
うち飼料用	33.0	37.0	33.0 (28.0)	-	▲10.8
輸 出 量	1.0	1.0	1.0 (1.2)	-	▲3.8
輸 入 量	13.3	13.6	12.0 (10.7)	-	▲12.0
期末在庫量	138.8	134.5	134.5 (142.9)	-	-
期末在庫率	93.2%	87.0%	88.5% (96.6%)	-	1.5
（参考）					
収穫面積(百万ha)	23.52	23.63	23.70 (23.65)	-	0.3
単収(t/ha)	5.86	5.78	5.91 (5.92)	-	2.2
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(12 September 2024) IGC 「Grain Market Report」(15 August 2024)					

図 中国の小麦の供給量と消費量の推移



資料：USDA「PS&D」（2024.9.12）をもとに農林水産省で作成

表 中国の小麦輸入量と輸入先国

（輸入量：万トン、シェア：%）

国 名	2024年1月～7月		2023年1月～7月		2023年1月～2023年12月	
	輸入量	シェア	輸入量	シェア	輸入量	シェア
豪州	329.9	32.7	555.7	63.7	693.9	57.4
フランス	229.7	22.8	82.1	9.4	82.5	6.8
カナダ	206.5	20.5	144.4	16.6	254.8	21.1
米国	174.9	17.3	54.9	6.3	92.6	7.7
カザフスタン	39.7	3.9	23.6	2.7	51.9	4.3
ロシア	25.3	2.5	7.7	0.9	28.5	2.4
その他	2.0	0.2	3.7	0.4	5.7	0.5
計	1,008.0	100.0	872.0	100.0	1,209.9	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDAの見通し> 2024/25年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・タンザニア、米国、カナダで上方修正されたものの、EU、ガーナ、ロシア等で下方修正され、前月から下方修正された。

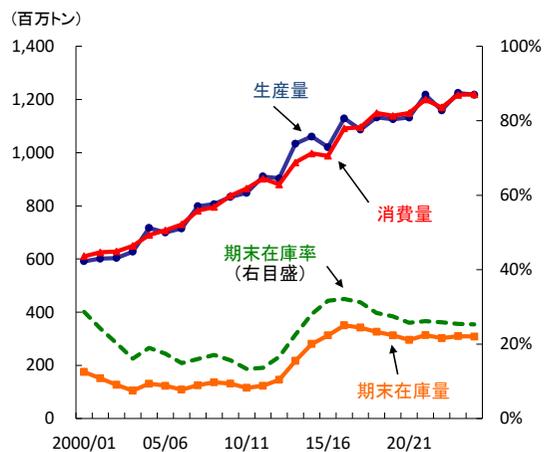
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ガーナ、イラン、EU等で下方修正されたものの、ブラジル、メキシコ、タンザニア等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・タンザニア、カナダで上方修正されたものの、ロシア、セルビア、EU等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2024.9.12)をもとに農林水産省にて作成。

◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

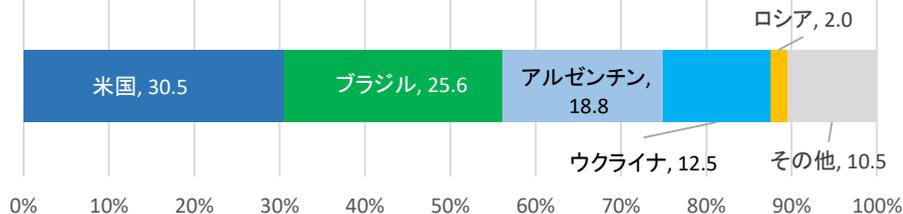
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,159.7	1,224.3	1,218.6	▲ 1.3	▲ 0.5
消費量	1,170.6	1,217.5	1,219.9	1.7	0.2
うち飼料用	734.6	766.6	772.2	▲ 0.6	0.7
輸出量	180.2	199.7	191.4	▲ 0.1	▲ 4.2
輸入量	173.4	192.5	185.4	▲ 0.4	▲ 3.7
期末在庫量	302.8	309.6	308.4	▲ 1.8	▲ 0.4
期末在庫率	25.9%	25.4%	25.3%	▲ 0.2	▲ 0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 September 2024)

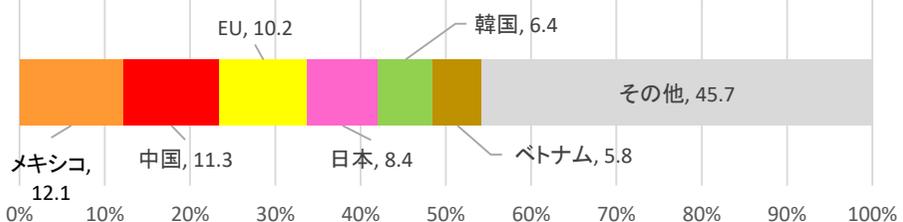
○ 2024/25年度 世界のとうもろこしの生産量(1,218.6百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度 世界のとうもろこしの輸出量(191.4百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度 世界のとうもろこしの輸入量(185.4百万トン)(単位：%)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 > 単収の引上げにより、生産量は1.0百万トン上方修正

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、単収が前月予測から0.03トン/ヘクタール引き上げられたため、前月予測から1.0百万トン上方修正されたものの、収穫面積の減少（対前年度比4.4%減）を受け、史上最高の前年度より1.0%減の385.7百万トンと史上2番目に高い見通し。作付け時の大豆価格は、前年度に史上最高の豊作となり価格が下落したとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたとみられる。

USDA「Crop Progress」(2024.9.16)によれば、9月15日現在、主要生産18州におけるデント（穀粒に窪みができる段階）進捗率は85%と、前年同期（88%）を下回っているものの、過去5年平均（84%）を上回っている。成熟進捗率も45%と、前年同期（48%）を下回っているものの、過去5年平均（38%）を上回っている。作柄評価が「良～やや良」の比率は65%であり、乾燥の影響を受けた前年同期（51%）を上回っている。現在、収穫が開始されており、収穫進捗率は9%と、前年同期（8%）、過去5年平均（6%）を上回っている。

【需要状況】USDAによれば、2024/25年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、安価なとうもろこし価格から飼料需要が増加したことを受けて、前年度に比べ0.3%増の321.7百万トンの見通し。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、米国産が価格競争力を有する見通しを受けて前年度より0.4%増の58.4百万トンの見込み。

USDA「Grain: World Markets and Trade」(2024.9.12)によれば、米国産の輸出価格は、9月9日現在、堅調な需要等を受けて前月から24ドル/トン上昇し、206ドル/トン。なお、2023年9月～2024年8月の輸出量は4,997万トンと、2023/24年度の豊作を受けて前年同期の3,126万トンより60%増。主な輸出先は、メキシコ1,647万トン（33.0%）、中国979万トン（19.6%）、日本782万トン（15.7%）の順。

USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、直近の輸出ペースが予想を上回ったことにより2023/24年度の輸出量が引き上げられたことを受けて、前月予測から0.4百万トン下方修正されたものの、高水準の生産量となる見通しを受けて、前年度より13.6%増の52.3百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より1.6ポイント上昇し13.7%と、過去5年平均（10.8%）を上回っている。

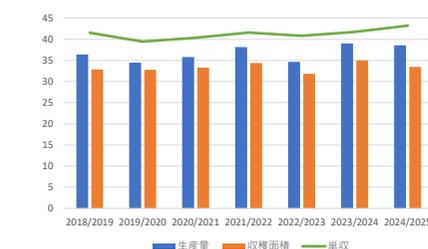
とうもろこし—米国

(単位:百万トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年9月～25年8月)		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	346.7	389.7	385.7	1.0	▲1.0
消費量	305.9	320.8	321.7	-	0.3
うち飼料用	139.4	146.7	148.0	-	0.9
エタノール用等	131.5	138.8	138.4	-	▲0.3
輸出量	42.2	58.2	58.4	-	0.4
輸入量	1.0	0.8	0.6	-	▲15.8
期末在庫量	34.6	46.0	52.3	▲0.4	13.6
期末在庫率	9.9%	12.1%	13.7%	▲0.1	1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	31.85	35.01	33.47	-	▲4.4
単収(t/ha)	10.89	11.13	11.52	0.03	3.5

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2024)

図1 米国産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移
(千万t,百万ha) (t/ha)



資料: USDA「PS&D」(2024.9.12)をもとに農林水産省にて作成

図2 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし
輸出価格(FOB)の推移



資料: IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 2024/25 年度の生産量は 4.1%増加の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 9 月以降作付けが開始される 2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加を受けて前年度より 4.1%増の 127.0 百万トンと、史上 2 番目に高い生産量となる見通し。エルニーニョ現象が終息し、10 月以降冬にかけてラニーニャ現象に移行する見込みもあり、生産量は増加する可能性がある。

ブラジル食料供給公社 (CONAB) の月例報告 (2024.9.12) によれば、2023/24 年度のとうもろこしの生産量は、大豆への作付けシフトによる作付面積の減少や生育初期の高温乾燥等による単収の低下から前年度比 12.3%減の 115.7 百万トンの見込み。収穫が終了した夏とうもろこし (大豆-ブラジルのクロップカレンダー (P.23) 参照) は、エルニーニョ現象による南部での降雨過多の影響等により、前年度比 16.1%減の 23.0 百万トンの見込み。冬とうもろこしは、中西部の高温乾燥の影響を受け、前年度比 11.3%減の 92.8 百万トンの見込み。9 月上旬時点で、冬とうもろこしの収穫進捗率は 99%と、前年同期 (82%) を上回り、収穫はほぼ完了。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、エタノール用需要増を受けて前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、国内の畜産物消費の増加を背景とした飼料用需要の増加から、前年度より 1.2%増の 81.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて前年度より 2.1%増の 49.0 百万トンとなり、前年に引き続き米国に次ぐ世界第 2 位の輸出国となる見込み。

なお、2023/24 年度の輸出量は、直近の冬とうもろこし収穫を受けた中国向けの輸出量が前年同期を大きく下回っていることを受けて、前月予測から 2.0 百万トン下方修正され、史上最高の豊作となった 2022/23 年度より 11.6%減の 48.0 百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1～8 月の輸出量は 17.9 百万トンで、史上最高の増産となった前年度より減産したことから前年同期比 29%減。内訳は、エジプト 2.1 百万トン (11.9%)、中国 1.8 百万トン (10.0%)、韓国 1.7 百万トン (9.5%) の順。なお、とうもろこし輸出は、大豆の輸出が一巡し、冬とうもろこしの収穫を受け本格化し始めている。

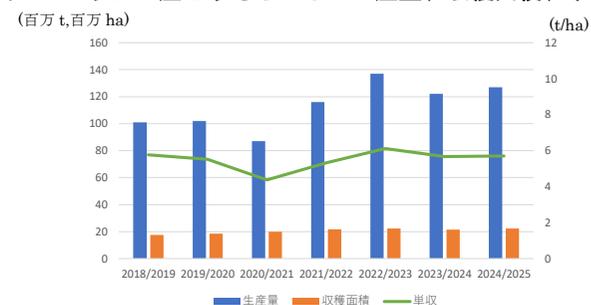
とうもろこし-ブラジル

(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが約 8 割、夏とうもろこしは約 2 割)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	137.0	122.0	127.0 (124.6)	-	4.1
消費量	78.0	80.5	81.5 (82.7)	1.0	1.2
うち飼料用	61.5	62.0	63.0 (56.9)	▲ 1.0	1.6
輸出量	54.3	48.0	49.0 (43.5)	-	2.1
輸入量	1.3	1.3	1.5 (2.0)	-	15.4
期末在庫量	10.0	4.8	2.8 (4.5)	-	▲ 41.3
期末在庫率	7.6%	3.8%	2.2% (3.6%)	▲ 0.0	▲ 1.6
(参考)					
収穫面積 (百万 ha)	22.40	21.50	22.30 (20.84)	-	3.7
単収 (t/ha)	6.12	5.67	5.70 (5.98)	-	0.5

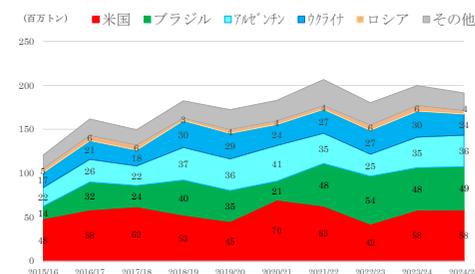
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 August 2024)

図 1 ブラジル産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.9.12) をもとに農林水産省にて作成

図 2 世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移
(ブラジルは米国に次ぐ世界第 2 位の輸出国)



資料：USDA 「PS&D」(2024.9.12) をもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 2.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 8 月下旬以降作付けが開始される 2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 2.0%増、過去 5 年平均（49.5 百万トン）より 3.0%増の 51.0 百万トンの見込み。ヨコバイによる被害が生産者の作付け意欲に負の影響を及ぼしているほか、とうもろこし価格の下落により収益が見込める大豆に作付けがシフトすることが見込まれることから収穫面積が減少するものの、前年度に比べ単収が増加すると見込まれることによる。

USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、干ばつにより減産した 2022/23 年度より 39%増の 50.0 百万トンの見込み。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度並みの 14.8 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて、前年度より 2.9%増の 36.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2024 年 1～7 月の輸出量は 2,149.2 万トンで、2022/23 年度の減産から回復したことを受け、前年同期（1,364.6 万トン）比で 57%増となった。内訳は、ベトナム 427.5 万トン（19.9%）、ペルー 227.1 万トン（10.6%）、アルジェリア 202.7 万トン（9.4%）の順。

現地情報によれば、7 月に、中国の国有企業の COFCO（中糧集団）が、アルゼンチン産とうもろこしの中国向けの出荷を準備しており、輸出されれば 15 年ぶりの中国向け輸出再開となる。

前年 12 月 10 日に右派のミレイ政権が誕生し、同 12 日に経済相は通貨ペソの公式レートを、現行の 1 ドル=350 ペソから 1 ドル=800 ペソに引き下げた。また、2021 年 12 月以降、国内向け穀物供給不足の回避と食料品価格の上昇を抑制するため、小麦及びとうもろこしに輸出上限数量を設定していたものの、2024 年 5 月に、市場に対する規制改革の一環として、小麦及びとうもろこしの輸出上限数量の撤廃を決定した。なお、アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げ、これを継続している。

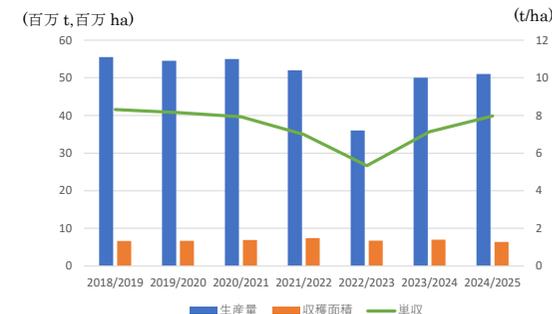
とうもろこし—アルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	36.0	50.0	51.0 (54.0)	-	2.0
消費量	14.2	14.8	14.8 (20.2)	-	-
うち飼料用	10.0	10.4	10.3 (15.0)	-	▲ 1.0
輸出量	25.2	35.0	36.0 (34.0)	-	2.9
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	▲ 50.0
期末在庫量	1.3	1.5	1.7 (1.6)	-	13.0
期末在庫率	3.3%	3.1%	3.4% (3.0%)	-	0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.75	7.00	6.40 (8.10)	-	▲ 8.6
単収(t/ha)	5.33	7.14	7.97 (6.79)	-	11.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 August 2024)

図 アルゼンチン産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.9.12) をもとに農林水産省にて作成

表 アルゼンチンのとうもろこし輸出量と輸出先国

(単位：万 t)

2024年7月		2024年1月～7月	
国名	輸出量	国名	輸出量
ベトナム	93.3	ベトナム	334.2
マレーシア	43.1	ペルー	189.6
ペルー	37.5	アルジェリア	189.4
韓国	34.9	マレーシア	198.1
チリ	26.2	韓国	174.0
その他	166.4	その他	662.3
計	401.4	計	1,747.6

資料：アルゼンチン国家統計局 (INDEC) をもとに農林水産省にて作成

< ウクライナ > 2024/25 年度の生産量は、前年度より 16.3%減の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、収益性の高い油糧種子への作付けシフトを受けて収穫面積が減少（対前年度比 2.4%減）するとともに、豊作の前年度から単収も減少（対前年度比 14.3%減）する見込みを受け、前年度より 16.3%減、侵攻前の史上最高の豊作となった 2021/22 年度から 35.4%減の 27.2 百万トンとなる見込み。

8 月末現在、生育ステージは概ね黄熟期から完熟期を迎えている。9 月 12 日現在、収穫進捗率は 6 %と、前年同期（0.3%）より進んでいる。

USDA によれば、9 月上旬、ウクライナ西部で降雨があったものの、他の地域では高温と干ばつが続いている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、減産による供給減を受けて前年度より 4.7%減の 4.1 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、供給減や EU での増産による輸入需要の減少を受け、前年度より 18.6%減の 24.0 百万トンの見込み。

なお、2023/24 年度の実績は、前月予測から変更はなく、臨時回廊による輸出が増加していることを受けて前年度より 8.9%増の 29.5 百万トンの見込み。

ウクライナ政府等によれば、臨時回廊による輸出が本格化した 2023 年 10 月～2024 年 8 月の輸出量は 2,802 万トン（海上輸送、陸路等による全ての輸出が含まれる）と、黒海穀物イニシアティブ履行時の 2022 年 7 月～2023 年 7 月と比べて月平均比で 6.7%増。輸出先国は、スペイン 616.4 万トン（22.0%）、中国 461.9 万トン（16.5%）、エジプト 361.9 万トン（12.9%）、オランダ 270.8 万トン（9.7%）の順。2023/24 年度に干ばつとなったスペイン向けが最大となっている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、減産による供給減から前年度より 53.2%減、侵攻前の 5 か年平均より 75%減の 0.7 百万トンの見込み。2024/25 年度の期末在庫率は、前年度から 2.0 ポイント減の 2.6%と、2018/19 年度以来の低水準となる見込み。

とうもろこし-ウクライナ

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.0	32.5	27.2 (26.0)	-	▲ 16.3
消費量	4.9	4.3	4.1 (4.7)	-	▲ 4.7
うち飼料用	4.0	3.3	3.1 (3.3)	-	▲ 6.1
輸出量	27.1	29.5	24.0 (21.6)	-	▲ 18.6
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	2.8	1.6	0.7 (0.7)	-	▲ 53.2
期末在庫率	8.7%	4.6%	2.6% (2.7%)	-	▲ 2.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	4.05	4.20	4.10 (4.20)	-	▲ 2.4
単収(t/ha)	6.67	7.74	6.63 (6.19)	-	▲ 14.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 August 2024)

図 とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移

(2024/25 年度の実績は、2017/18 年度以来の低水準の見込み)



表 ウクライナ産とうもろこしの主な輸出先国

(単位：万 t)

2024年8月		2023年10月～2024年8月	
国名	輸出量	国名	輸出量
スペイン	20.8	スペイン	616.4
インド	9.6	中国	461.9
スペイン	7.0	エジプト	361.9
イスラエル	6.8	オランダ	270.8
イタリア	5.7	イタリア	238.8

資料：ウクライナ国家統計局のデータを基に農林水産省にて作成

< 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 1.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、作付面積の増加見込みを受けて、前年度より 1.1%増の 292.0 百万トンとなり、史上最高となる見込み。

全国農業気象月報（2024.9.5）によれば、8 月は生育に適した気温となり、農地の土壌水分も十分であり、とうもろこしの開花や登熟に適しているとみられる。8 月末現在、主産地の黒竜江省では概ね絹糸抽出期から乳熟期にある。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用需要が増大することから、前年度より 2.0%増の 313.0 百万トンと史上最高の見込み。背景には国内の堅調な食肉需要があり、中国国家統計局（2024.1.17）によれば、2023 年の食肉生産量は 9,641 万トンと、前年比で 4.5%増。ただし、業界情報によれば、直近では中国の経済成長が鈍化し、豚肉の価格が低迷する中、中国政府は 3 月から国内の養豚飼育数の生産目標を減らす供給過剰対策を開始しており、飼料用需要減少につながるとの見方もある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測から 2.0 百万トン下方修正され、前年度より 10.6%減の 21.0 百万トンの見込み。

なお、2023/24 年度の輸入量は、直近の輸入ペースを受けて前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、前年度より 25.7%増の 23.5 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～7 月の輸入量は、国内産とうもろこし及び代替品の価格低下等を受けて前年同期比 11.4%減の 1,214.3 万トンの見込み。内訳は、ブラジル 576.5 万トン（52.2%）、ウクライナ 428.8 万トン（32.7%）、米国 178.9 万トン（12.5%）の順。

等の在庫が十分なこと等を受けて、2,480 元/トンと前月（2,500 元/トン）から小幅に下落した。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸入量の引下げを受けて前月予測から 1.5 百万トン下方修正され、前年度より 0.01%減の 211.3 百万トンとほぼ横ばいの見込み。

とうもろこし—中国

(単位: 百万トン)

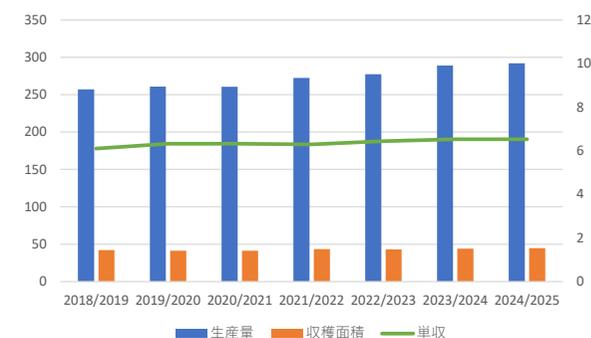
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	277.2	288.8	292.0 (296.0)	-	1.1
消費量	299.0	307.0	313.0 (315.7)	-	2.0
うち飼料用	218.0	225.0	231.0 (213.0)	-	2.7
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸 入 量	18.7	23.5	21.0 (18.0)	▲ 2.0	▲ 10.6
期末在庫量	206.0	211.4	211.3 (178.6)	▲ 1.5	▲ 0.01
期末在庫率	68.9%	68.8%	67.5% (56.6%)	▲ 0.5	▲ 1.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	43.07	44.22	44.70 (44.20)	-	1.1
単収(t/ha)	6.44	6.53	6.53 (6.70)	-	-

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」(12 September 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 August 2024)

図 中国産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移
(百万 t, 百万 ha) (t/ha)



資料: USDA 「PS&D」(2024.9.12) をもとに農林水産省にて作成

表 中国のとうもろこし輸入量と輸入先国

(輸入量: 万トン、シェア: %)

2024年 1～7 月			2023年 1月～2023年12月			2022年 1月～2022年12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	576.5	47.5	ブラジル	1,280.6	47.2	米国	1,486.5	72.1
ウクライナ	428.8	35.3	米国	714.4	26.3	ウクライナ	526.4	25.5
米国	178.9	14.7	ウクライナ	551.8	20.3	ミャンマー	19.4	0.9
ロシア	8.8	0.7	ブルガリア	73.9	2.7	ブルガリア	14.7	0.7
ブルガリア	7.6	0.6	ミャンマー	38.1	1.4	ロシア	9.5	0.5
南アフリカ共和国	5.6	0.5	ロシア	29.4	1.1	ラオス	5.1	0.2
その他	8.1	0.7	その他	24.5	0.9	その他	0.2	0.0
計	1,214.3	100	計	2,712.7	100	計	2,061.8	100

資料: 中国海関統計をもとに農林水産省で作成

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要 (詳細は右表を参照)

<USDA の見通し>

2024/25 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・インドで上方修正されたものの、米国、バングラデシュ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

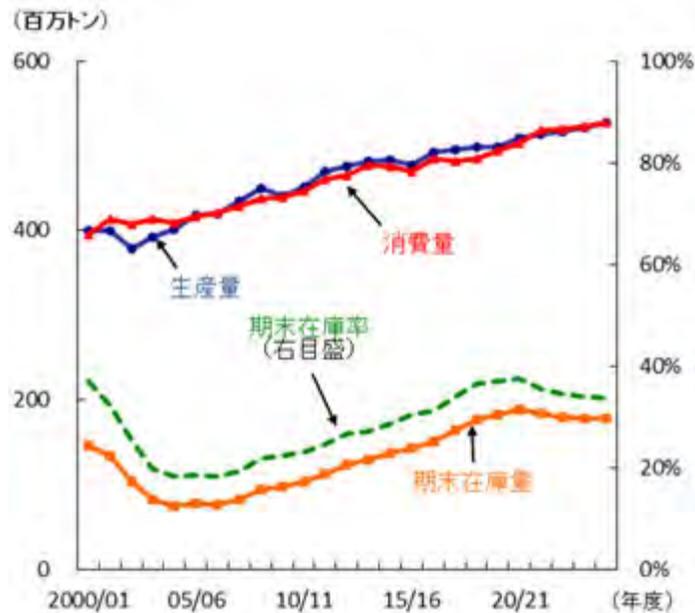
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・米国、バングラデシュで下方修正されたものの、中国、インド等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・豪州、中国で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2024.9.12)をもとに農林水産省にて作成

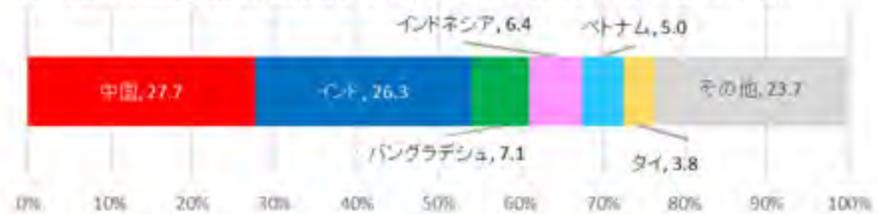
◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	516.0	520.7	527.3	▲ 0.4	1.3
消費量	519.9	523.0	527.5	0.5	0.8
輸出量	54.6	54.4	54.3	▲ 0.1	▲ 0.2
輸入量	56.6	51.5	51.0	0.1	▲ 1.0
期末在庫量	179.8	177.4	177.2	▲ 0.2	▲ 0.1
期末在庫率	34.6%	33.9%	33.6%	▲ 0.1	▲ 0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 September, 2024)

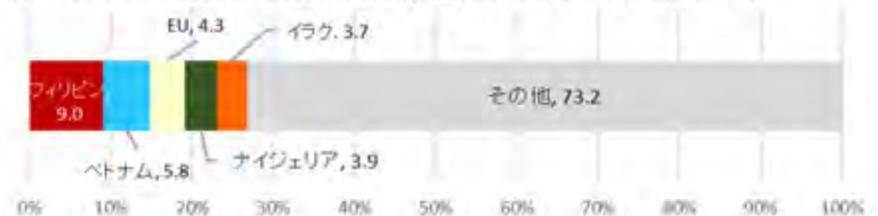
○ 2024/25年度の世界のコメの生産量(527.3百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界のコメの輸出量(54.3百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界のコメの輸入量(51.0百万トン)(単位：%)



(2) 国別のコメの需給動向

< タイ > 2024/25年度の生産量は、前年度に比べ0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、20.1百万トンと、前年度に比べ0.5%増加する見込み。雨季の開始が遅れ降雨量が少なかった2023年に比べ、2024年は平年通りの雨季（例年5月～10月）となり収穫面積の増加が見込まれることによる。

タイ農業協同組合省農業経済局「農業経済」（2024.8）によれば、2024/25年度の雨季米の生産量は、良好な天候から前年度に比べ0.8%増加の27.0百万トン（粳ベース）の見込み。単収は増加した一方、作付面積は、前年度の995万ヘクタールから994万ヘクタールに僅かに減少する見込み。コメの市場価格が高いことから栽培面積を増加させる生産者がいる一方、天候への懸念から乾燥に強いキャッサバや市場価格が高騰しているサトウキビへの作付のシフトも行われている。また2024/25年度の乾季米の収穫量は、降雨に恵まれ十分な灌漑用水が確保されるとみられることから前年度に比べ15%増の7.2百万トンの見込み。

USDAによれば、2023/24年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、20.0百万トンと前年度に比べ0.5%減少する見込み。

タイ農業協同組合省農業経済局「農業経済」（2024.7月号）によれば、灌漑用水の不足による乾季米の作付面積が減少したこと等を受けて、前年度より減産するとみられる。なお、乾季米の収穫は、7月までに概ね終了している。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は前月予測からの変更はなく、輸入拡大していたインドネシアの輸入減少を受け、7.5百万トンと、前年度から14.8%減少する見込み。2023/24年度（2024年1月～12月）の輸出量は、6月までの輸出ペースが予想を上回り、サハラ以南のアフリカ向けが増加したことを受け、前月予測から0.3百万トン上方修正され8.8百万トンの見込み。

タイ関税局によれば、2024年1～7月の輸出量は、前年同期比22.0%増の568.5万トンとなった。このうち、政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大しているインドネシア向けの輸出量は、前年同期の71.8万トンから50.0%増加し、107.7万トンと輸出先国の中で最大となった。タイ政府は、2024年上半期の輸出実績に加え、インドのコメの輸出制限の継続、フィリピン及びインドネシアの需要増加等により、引き続き好調な輸出を見込み、2024年の輸出目標を800万トンから820万トンに上方修正した。

コメータイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年1月～25年12月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.9	20.0	20.1 (20.1)	-	0.5
消費量	12.5	12.5	12.6 (12.5)	-	0.8
輸出量	8.7	8.8	7.5 (8.2)	-	▲ 14.8
輸入量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-
期末在庫量	3.9	2.7	2.8 (3.0)	-	3.8
期末在庫率	18.1%	12.4%	13.7% (14.5%)	-	1.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	11.07	10.65	10.70 (10.70)	-	0.5
単収(もみt/ha)	2.86	2.85	2.85 (1.88)	-	-

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September, 2024)
IGC「Grain Market Report」(15 Aug, 2024) (単収は精米t/ha)

表 タイの国別輸出量

(輸出量:万トン、シェア:%)

2023/24年度 (2024年1月～7月)			2022/23年度 (2023年1月～12月)			2021/22年度 (2022年1月～12月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
インドネシア	107.7	18.9	インドネシア	141.1	16.1	イラク	160.0	20.8
イラク	63.0	11.1	南アフリカ	88.5	10.1	南アフリカ	77.5	10.1
米国	46.5	8.2	イラク	85.4	9.7	中国	75.2	9.8
南アフリカ	40.1	7.1	米国	70.6	8.1	米国	65.2	8.5
フィリピン	30.2	5.3	中国	47.2	5.4	日本	31.3	4.1
コートジボワール	25.2	4.4	フィリピン	42.0	4.8	セネガル	23.2	3.0
その他	255.8	45.0	その他	401.5	45.8	その他	338.6	43.9
計	568.5	100.0	計	876.3	100.0	計	771.0	100.0

資料: タイ関税局 (2024.9)

< 米国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.7%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実績は、単収の低下を受け、前月予測から僅かに下方修正され 7.0 百万トンの見込み。前年度に比べ、生産量は収穫面積の増加から 0.7%増加し、2020/21 年度以降最大となる見込み。

同「Rice Outlook」(2024.9.16)によれば、7月上旬のテキサス州でハリケーン「ベリル」が、出穂期にあるコメに倒伏等の影響を与え単収が低下した。種類別の生産量は、長粒種が5.3百万トンと前年度を8%上回るものの、中・短粒種は、収穫面積の影響を受け1.7百万トンと前年度を18%下回る見込み。中・短粒種の主産地であるカリフォルニア州では、5月初旬の豪雨により作付が遅延するとともに、この豪雨と価格の低下により作付面積が減少した。

同「Crop Progress」(2024.9.8)によれば、9月8日現在の作柄評価は、テキサス州でハリケーン「ベリル」の影響を受けたものの「やや良～良」の割合が80%と前年同期(71%)を9ポイント上回っている。また同「Crop Progress」(2024.9.16)によれば、9月15日現在の主要生産6州の収穫進捗率は64%と、前年(54%)及び過去5年平均(44%)を上回っている。南部の生産州では作付が早かったことから収穫が進展している一方、カリフォルニア州では平年通り9月上旬から収穫が開始された。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度の実績は、前月予測から僅かに下方修正されたものの、期首在庫及び輸入増を受け、前年度に比べ 2.2%増の 5.1 百万トンと史上最高の見込み。

2024/25 年度の実績は、前月予測から僅かに上方修正され、引き続きタイ及びインドを中心としたアジア諸国からの香り米の輸入が継続する見込みを受け、前年度に比べ 4.2%増の 1.5 百万トンと史上最高の見込み。2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく 3.2 百万トンと、輸出余力の増加から前年度に比べ 2.9%増加し、2016/17 年度以降で最高となる見込み。種類別の輸出量は、長粒種は中南米諸国向けを中心に、米国の豊富な輸出余力と価格競争力から 2017/18 年度以降最高となり、中・短粒種はアジア諸国を中心に、供給量の増加と米国産の価格低下から前年度に比べ増加する見込み。

USDA「Exports Sales Query System」(2024.8)によれば、2023/24 年度(2023年8月～2024年7月)の実績は 3.3 百万トンで、主な輸出先国は、メキシコ 90.6 万トン(27.7%)、ハイチ 34.5 万トン(10.5%)、日本 29.6 万トン(9.0%)の順。2024/25 年度の実績は、期首在庫の引上げ等を受け、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 1.5 百万トンとなり、前年度に比べ 16.0%増加する見込み。

コメー米国

長粒種の実績が 75%を占め、中・短粒種の実績は 25%、その内カリフォルニア州での栽培が 20%

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.1	6.9	7.0	▲ 0.03	0.7
消費量	4.6	4.9	5.1	▲ 0.03	2.2
輸 出 量	2.1	3.1	3.2	-	2.9
輸 入 量	1.3	1.4	1.5	0.03	4.2
期末在庫量	1.0	1.3	1.5	0.1	16.0
期末在庫率	14.4%	15.5%	17.6%	0.8	2.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	0.88	1.16	1.17	-	0.9
単収(もみt/ha)	8.28	8.57	8.50	▲ 0.04	▲ 0.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September, 2024)

図 米国の長粒種と中・短粒種の実績・輸出価格の推移



資料：USDA「Rice Outlook」(2024.9.16)より。価格は年度内の平均価格

< 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 1.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、146.0 百万トンと、収穫面積の増加（前年度比 0.2%増）及び史上最高の単収（前年度比 0.7%増）から、前年度に比べ 1.0%増の見込み。政府の最低支持価格の上昇を受け、収穫面積はわずかに増加する見込み。

全国農業気象月報（2024.9.5）によれば、8 月末まで、主産地である東北地域（黒龍江省、吉林省、遼寧省）では、一期作米の大部分は乳熟期であり、四川盆地（中国南西部、四川省、重慶市）では一期作米は成熟し、収穫された。

江淮地帯（長江・淮河の間）の大部分では出穂・穂ばらみ期にあり、一部は乳熟期にある。

二期作早生米は収穫が終了している。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 145.1 百万トン。飼料用需要が比較的安価なとうもろこしへシフトすることや、食用需要が高齢化の進展、若年層の食生活の西洋化等に伴い減少することから、前年度比で 2.0%減少する見込み。

消費量は 2021/22 年度に史上最高の 156.4 百万トンに達したのち、3 年連続で減少している。

2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、特に飼料用の国内消費量の減少や生産量の増加から、前年度比 2.0%減の 1.5 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～7 月の輸入量は 80.5 万トン（前年同期比 25.5%増）で、輸入国別では、ミャンマー 24.5 万トン（30.5%）、ベトナム 22.5 万トン（28.0%）、タイ 21.7 万トン（26.9%）の順。

USDAによれば、「一帯一路」政策の賛同国を拡大する目的から、同政策の関係国に対しコメの輸出促進を図っているものの、軟調な需要に基づく輸出ペースが続くと予想されることから、2024/25 年度の輸出量は、前月予測から 0.1 百万トン下方修正され、前年度比 14.1%減の 1.4 百万トンの見込み。

2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から変更はなく 104.0 百万トンと、前年度に比べ 1.0%増の見込み。なお、期末在庫量は、2020/21 年度に史上最高の 116.5 百万トンに達したのち低下したものの、2024/25 年度は上昇に転じた。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは 3 割程度

(単位: 百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予 測 値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	146.0	144.6	146.0 (145.0)	-	1.0
消 費 量	155.0	148.1	145.1 (145.2)	0.1	▲ 2.0
輸 出 量	1.7	1.6	1.4 (1.6)	▲ 0.1	▲ 14.1
輸 入 量	4.4	1.5	1.5 (2.1)	-	▲ 2.0
期末在庫量	106.6	103.0	104.0 (101.7)	-	1.0
期末在庫率	68.0%	68.8%	71.0% (69.3%)	-	2.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	29.45	28.95	29.00 (29.00)	-	0.2
単収(もみt/ha)	7.08	7.14	7.19 (5.00)	-	0.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September, 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 Aug, 2024) (単収は精米t/ha)

図 中国の生産量、収穫面積、単収の推移 (2004/05～2024/25 年度)



資料: USDA 「PS&D」(2024.9.12)をもとに農林水産省にて作成

< インド > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 1.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実生産量は、収穫面積の増加により、前月予測から 1.0%上方修正され 139.0 百万トンと、前年度比で 1.5%増加、過去 5 年平均（129.1 百万トン）と比べ 7.7%増加し、史上最高の見込み。収穫面積は、主にインド東部におけるモンスーンの降水量が前年を上回り、カリフ米の収穫面積が予想を上回ったことから、前月予測から 0.5 百万ヘクタール増の 48.5 百万ヘクタールとなり、前年度に比べ 1.9%増加し史上最高となる見込み。

インド政府（2024.9.2）によると、綿花に比べて単収が高く、投入コストが低いコメに作付がシフトしており、カリフ米の作付面積は前年度から 4%増加し 40.87 百万ヘクタールとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され 2.8%増の 121.0 百万トン。

国民の食料安全保障を確保するためにインド政府による公的食料配給制度が継続しており、より多くのコメが供給される見込み。政府は公的食料配給制度により市場からコメ等を調達し、低所得世帯（8.14 億人以上）に無償又は低価格で配給している。

USDAによれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、供給量の増加を受け、前年度比 18.0%増の 18.0 百万トンの見込み。依然として世界第 1 位の輸出シェアを維持しており、世界全体のコメ輸出総量の約 33%を占める。

2023/ 24 年度の輸出量は、前月予測から下方修正され 15.3 百万トンと、前年度比 24.7%減。

インド輸出入統計によれば、2023 年 10 月から 2024 年 6 月までの輸出量は 11.3 百万トンで、主な輸出先国は、サウジアラビア 110.2 万トン（9.8%）、ベナン 81.3 万トン（7.2%）、ギニア 75.7 万トン（6.7%）の順。サウジアラビア等中東諸国向けはバスマティ米の輸出が主である。なお、インドは、2022 年 9 月 9 日以降、非バスマティ米を中心に、様々な輸出規制を発動・強化している。

2024 年 2 月 21 日に、インド財務省は本年 3 月 31 日までの予定だったパーボイルド米の 20%の輸出関税を無期限に延長した。

一方、インド政府は輸出者等からの要請を受け 2024 年 9 月 14 日に、2023 年 8 月 27 日より導入したバスマティ米の最低輸出価格の撤廃を発表した（詳細は右表を参照）。

インド食品公社（Food Cooperation India）によれば、8 月時点での期末在庫量は、32.75 百万トンと前年に比べ 34.8%増の見込み。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	135.8	137.0	139.0 (137.5)	1.0	1.5
消費量	114.5	117.8	121.0 (118.5)	1.0	2.8
輸 出 量	20.3	15.3	18.0 (17.3)	-	18.0
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	35.0	39.0	39.0 (41.8)	0.5	-
期末在庫率	26.0%	29.3%	28.1% (30.8%)	0.2	▲ 1.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	47.83	47.60	48.50 (48.50)	0.50	1.9
単収(もみt/ha)	4.26	4.32	4.30 (2.84)	▲ 0.01	▲ 0.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September, 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 Aug, 2024) (単収は精米t/ha)

表 インドのコメ輸出規制(2022 年9月9日～)

対象品目	措置内容	発動日
全ての種類のコメの籾 (HS 1006 10)	輸出税 (20%)	2022.9.9～
全ての種類のコメの玄米 (HS 1006 20)	輸出税 (20%)	2022.9.9～
バスマティ米・精米 (HS1006 30 20)	関税: 12,000ルピー/t (日本円で約2万円/t) 最低輸出価格導入 (1,200ドル/トン→950ドル /トンに引き下げ (2023.10.26～))	(法定税率) 2023. 8. 2 7～ →2024.9.14.イ ンド政府は完全撤 廃を発表。施行日 未定。
パーボイルド米・精米 (HS1006 30 10)	輸出税 (20%)	2023.8.25～
バスマティ米・パーボ イルド米以外の精米 (HS1006 30 90)	輸出禁止	2023.7.20～ 2024.12.31

※食料安全保障上の理由でインド政府が認める場合は輸出を許可
※有機米は本措置の対象外
資料: インド政府の公示等をもとに農林水産省にて作成

< ベトナム > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5% 減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、26.5 百万トンと、前年度を 0.5% 下回る見込み。2016/17 年以降、南部沿岸地域における海水の浸潤やメコン川の水流量減少、肥料価格の高騰、高収益作物等（果物・野菜・養殖）へのシフト等から、作付面積は減少傾向にある。2023/24 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく 26.6 百万トンと前年度に比べ 1.8% 減少する見込み。

農業農村開発省（MARD）によれば、9 月上旬の台風 11 号「ヤギ」の影響を受け、12 万 4,593 ヘクタールの稲作地が水没したが、実際の被害面積は大きくなく、主産地である紅河デルタ地域（北部）では、回復不能な面積も少ないため、夏秋作の生長に問題はないとみられている。

紅河デルタ地域（北部）では、夏秋作（雨季米）は幼穂形成期にあり、イネの生育状態は良好。メコンデルタ地域（南部）では、夏秋作（雨季米）が収穫期にあり、17.30 百万ヘクタールのうち 0.55 百万ヘクタールの収穫が終了している。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、インドネシアからの輸出が増加し過去最高となった 2024 年度に比べ 14.0% 減少する見込み。

USDA 「Rice Outlook」(2024.9.16) によれば、2023/24 年度の輸出見通しは、直近のインドネシア政府との 18 万 5,000 トンの追加契約に基づき、前年度に比べ 4.6% 増の 860 万トンと過去最高に引き上げられた。

同「Rice Outlook」(2024.9.16) によれば、8 月中旬以降、収穫が終わりに近づいたベトナム産 5% 破碎米（夏秋産）の価格は、新規需要の鈍化及び農産物価格の下落により、8 月 13 日の週から 25 ドル下落し、9 月 10 日の週に 580 ドル/トンとなった。

ベトナム食品協会（VFA）(2024.8.23) によれば、ベトナムのコメ輸出価格が世界で最も高い水準に達し、タイやパキスタンなどの主要輸出国を上回っていると発表。

ベトナム関税総局によれば、2024 年 1～8 月の輸出量は 615.0 万トンと、前年同期（581.3 万トン）に比べ 5.8% 増加。主な輸出先国は、フィリピン 280.7 万トン（45.6%）、インドネシア 91.3 万トン（14.9%）、マレーシア 58.3 万トン（9.5%）、ガーナ 34.0 万トン（6.0%）の順。

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位: 百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年1月～25年12月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.1	26.6	26.5 (28.6)	-	▲ 0.5
消費量	21.9	22.0	22.0 (22.4)	-	-
輸出量	8.2	8.6	7.4 (7.8)	-	▲ 14.0
輸入量	2.8	2.9	3.0 (2.2)	-	1.7
期末在庫量	2.6	1.6	1.6 (3.4)	-	3.2
期末在庫率	8.7%	5.1%	5.4% (11.1%)	-	0.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.12	7.00	6.95 (7.20)	-	▲ 0.7
単収(もみt/ha)	6.10	6.09	6.10 (3.97)	-	0.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September, 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 Aug, 2024) (単収は精米t/ha)

写真 南部キエンザン省 ホアダット地区 ビンザン村の圃場風景 (2024 年 9 月 2 日撮影)



茎の伸長期～出穂期を迎えており、生育は順調である。

II 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要 (詳細は右表を参照)

<USDAの見通し> 2024/25年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・EU、米国等で下方修正されたものの、パラグアイ、カナダで上方修正され、前月予測から上方修正された。史上最高の見込み。

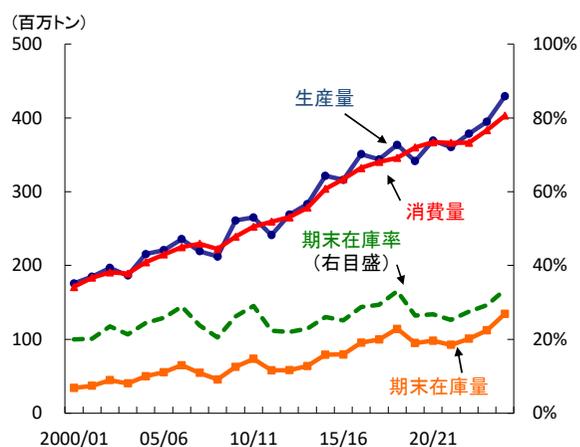
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・カナダ、米国で上方修正され、前月予測から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・パラグアイで上方修正され、前月予測から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」(2024.9.12)をもとに農林水産省で作成

◎世界の大豆需給

(単位：百万トン)

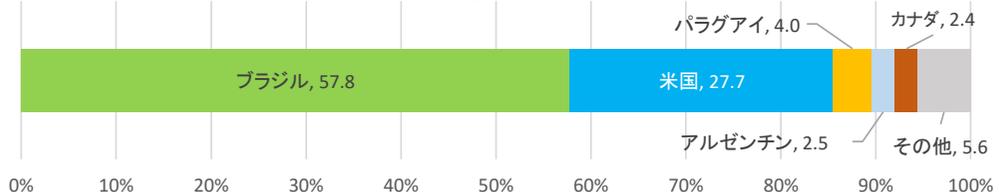
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	378.7	394.8	429.2	0.5	8.7
消費量	366.5	383.3	403.0	0.1	5.1
うち搾油用	315.4	330.1	346.7	0.1	5.0
輸出量	171.8	178.0	181.6	0.4	2.1
輸入量	167.8	177.9	177.7	0.5	▲ 0.1
期末在庫量	100.9	112.3	134.6	0.3	19.9
期末在庫率	27.5%	29.3%	33.4%	0.1	4.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 September 2024)

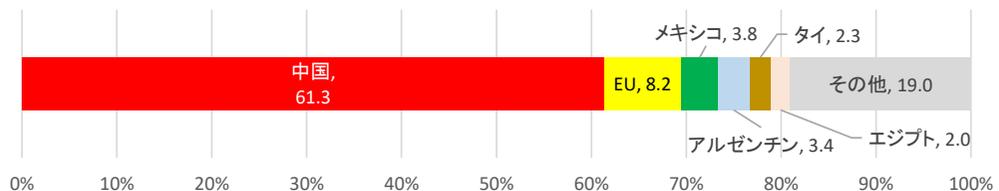
○ 2024/25年度の世界の大豆の生産量(429.2百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界の大豆の輸出量(181.6百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界の大豆の輸入量(177.7百万トン)(単位：%)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 > 2024/25 年度の生産量は前年度より 10.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、単収の引下げ等を受け、前月予測から 0.1 百万トン下方修正されたものの、収穫面積及び単収の増加を受け、前年度より 10.1%増の 124.8 百万トンと史上最高の見通し。作付け時の大豆価格が、前年度に史上最高の豊作となり価格が下落したとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたとみられる。

USDA 「Crop Progress」(2024.9.16) によれば、9 月 15 日現在、主要生産 18 州における落葉進捗率は 44%と、前年同期(47%)を下回ったものの、過去 5 年平均(37%)を上回っている。収穫進捗率は 6%と、前年同期(4%)、過去 5 年平均(3%)を上回っている。作柄評価が「良～やや良」の比率は 64%と、乾燥の影響を受けた前年同期(62%)を上回っている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、飼料用需要の引上げを受けて前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、バイオ燃料等の需要増による搾油の収益改善の見通しから、前年度より 5.5%増の 69.2 百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、世界全体の搾油用需要が増加する見通しから、前年度より 8.8%増の 50.4 百万トンの見込み。

USDA 「Oilseeds: World Markets and Trade」(2024.9.12) によれば、米国大豆価格は、9 月 2 日現在、豊作見通しを受けて前月から 8 ドル/トン下落し、401 ドル/トンと、2022 年 12 月以降初めてブラジル産(420 ドル/トン)及びアルゼンチン産(412 ドル/トン)を下回っている。なお、USDA によれば、2023 年 9 月～2024 年 8 月の輸出量は 4,876 万トンと、世界的な大豆需要の増加を受けて前年同期の 4,818 万トンより 1.2%増。内訳は中国 2,400 万トン(49.2%)、メキシコ 635 万トン(13.0%)、日本 333 万トン(6.8%)の順となっている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前年度の搾油用需要の引上げを受けた期首在庫の減少や生産量の引下げによる供給減を受けて前月予測から 0.3 百万トン下方修正されたものの、増産を受けて前年度より 61.7%増の 15.0 百万トンとなる見込み。期末在庫率は 12.5%と、過去 5 年平均(8.0%)を上回り、2019/20 年度以来 5 年ぶりに 10%台まで回復する見通し。

大豆－米国

(単位:百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年9月～25年8月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	116.2	113.3	124.8	▲ 0.1	10.1
消費量	63.3	65.6	69.2	0.1	5.5
うち搾油用	60.2	62.5	66.0	-	5.7
輸 出 量	53.9	46.3	50.4	-	8.8
輸 入 量	0.7	0.5	0.4	-	▲ 24.1
期末在庫量	7.2	9.3	15.0	▲ 0.3	61.7
期末在庫率	6.1%	8.3%	12.5%	▲ 0.2	4.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	34.87	33.33	34.91	-	4.7
単収(t/ha)	3.33	3.40	3.57	▲ 0.01	5.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2024)

図1 米国産大豆の生産量、収穫面積、単収の推



資料: USDA 「PS&D」(2024.9.12) をもとに農林水産省にて作成

図2 米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格(FOB)の推移



資料: IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度より 10.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 10 月以降作付けが開始される 2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が史上最高となる見込みを受け、前年度より 10.5%増の 169.0 百万トンと史上最高の見通し。エルニーニョ現象が終息し、10 月以降冬にかけてラニーニャ現象に移行する見込みもあり、生産量は増加する可能性もある。

CONAB の月例報告 (2024.9.12) によれば、2023/24 年度の実績は、とうもろこし等から収益性が高い大豆に作付けがシフトすることで収穫面積が増加するものの、生育初期の高温乾燥による単収減から前年度より 4.7%減の 147.4 百万トンの見通し。6 月中旬に収穫は完了。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、引き続き堅調な搾油用需要から前年度より 0.4%増の 58.1 百万トンとほぼ横ばいの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、レアル安による価格競争力と中国からの引き続き堅調な需要から、前年度並みの 105.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1～8 月の輸出量は 83.4 百万トンで、前年同期 (80.8 百万トン) に比べ 3.2%増となっており、中国向け輸出が昨年に引き続き堅調に推移していることが要因。輸出先は、中国 61.2 百万トン (73.3%)、スペイン 3.5 百万トン (4.2%)、トルコ 2.3 百万トン (2.7%) の順。

2023 年 6 月、北部のマラニョン州イタキ港と南部のサンパウロ州サントス港を結ぶ南北鉄道が開通した。さらに、マット・グロソ州から南部サントス港まで輸送する鉄道の拡張工事も行われており、これらのアクセス改善が輸出のボトルネックを回避する一助になることが期待されている。

報道情報によれば、9 月中旬現在、南米のアマゾン川流域では、降雨不足と干ばつにより河川の水位が記録的な水準に低下し、一部では輸出向け穀物を運ぶはしけの航行に支障をきたしている。

ブラジルでは、従来からの主要な穀物輸送手段であるトラック輸送に加え、近年では鉄道輸送網が整備されつつある一方で、アマゾン川の水運も主要な輸送手段の一つとなっているため、アマゾン川の水位低下が穀物輸出へ及ぼす影響を注視する必要がある。

大豆—ブラジル

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	162.0	153.0	169.0 (161.5)	-	10.5
消費量	57.2	57.9	58.1 (57.3)	-	0.4
うち搾油用	53.4	54.0	54.0 (54.3)	-	-
輸出量	95.5	105.0	105.0 (104.0)	-	-
輸入量	0.2	0.9	0.2 (0.7)	-	▲ 83.3
期末在庫量	36.8	27.9	33.9 (2.4)	0.1	21.7
期末在庫率	24.1%	17.1%	20.8% (1.5%)	0.03	3.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	44.60	45.80	47.30 (41.49)	-	3.3
単収(t/ha)	3.63	3.34	3.57 (3.89)	-	6.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 August 2024)

図1 ブラジル産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.9.12) をもとに農林水産省にて作成

図2 ブラジルのクロープカレンダー (中部から南部)

2023/24年度の実績は、2023年9月以降、順次開始。
2024年2月以降、大豆の収穫が行われ、その後、一部の圃場で冬とうもろこしを栽培。

2023/24年度	2023年				2024年								
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし (リオ・グランデ・ド・スール 州等)	作付 4.0(百万ha)				収穫 23.0(百万t) → 収穫夏冬作計 115.7百万t								
冬とうもろこし (マット・グロソ州、 パラナ州等)	作付面積夏冬作計 21.1百万ha ←				作付 17.1(百万ha) → 収穫92.8(百万t)								
大豆 (マット・グロソ州、 パラナ州等)	作付 46.0(百万ha)				大豆収穫後の一部圃場で冬とうもろこしを作付 収穫 147.4(百万t)								

資料：CONAB 穀物レポート (2024.9.12)

< カナダ > 2024/25 年度の生産量は前年度より 3.1%増加する見込み (AAFC)

【生育・生産状況】AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2024.9.25)によれば、2024/25年度の生産量は、収穫面積が下方修正されたものの、単収が上げられたことを受けて前月予測から0.1百万トン上方修正され、前年度から3.1%増の7.2百万トンの見込み。大豆価格が低下しているものの、大豆粕の需要と輸出は堅調であり、生産量は微増するとみられる。土壌水分量は現時点で十分とみられる。なお、USDAによれば、9月上旬、温暖で乾燥した天候が広がり、作物の成熟に好影響を与えている。

カナダ統計局「Model-based principal field crop estimates, August 2024」(2024.9.16)によれば、州別には、米国コーンベルトに隣接する最大生産州オンタリオ州の生産量は、前年度に比べ6.9%増の4.3百万トンの見込み。とうもろこし等の他作物より価格が有利な大豆の作付けを増加させたため収穫面積が増加することが主な要因とみられる。隣接するマニトバ州、ケベック州でも生産されており、マニトバ州では前年度より減産する一方、ケベック州では前年度より増産の見込み。

オンタリオ州では、9月中旬現在、概ね成熟期を迎えている。

【需要状況】AAFCによれば、2024/25年度の消費量は、飼料用等の需要の減少により前年度から1.2%減の2.5百万トンの見込み。なお、飼料用等の需要引上げを受けて前月予測から0.1百万トン上方修正された。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、2024/25年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より2.0%増の5.0百万トンの見込み。主要な輸出先国である中国において、搾油用需要の増加に伴い、中国の輸入量が増加することが要因の一つとみられる。

カナダ穀物委員会によれば、2023/24年度(2023年8月～2024年7月)の輸出量は340.9万トンで、前年同期(311.6万トン)を上回っている。国別では、中国143.9万トン(43.6%)、アルジェリア58.2万トン(16.6%)、イラン54.6万トン(16.5%)、オランダ18.5万トン(5.6%)の順となっている。

AAFCによれば、2024/25年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、増産により前年度から40.0%増の0.5百万トンの見込み。

大豆－カナダ

(単位：百万トン)

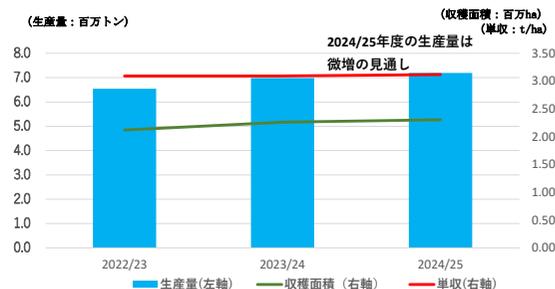
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.5	7.0	7.2 (7.2)	0.3	3.1
消費量	2.7	2.5	2.9 (2.5)	0.1	12.6
うち搾油用	1.8	1.7	1.8 (1.9)	0.1	2.6
輸 出 量	4.2	4.9	4.3 (5.0)	-	▲ 11.4
輸 入 量	0.5	0.3	0.4 (0.5)	▲ 0.1	4.5
期末在庫量	0.4	0.3	0.7 (0.5)	0.2	132.0
期末在庫率	5.3%	4.1%	9.8% (7.0%)	2.0	5.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	2.12	2.26	2.30 (2.31)	-	1.8
単収(t/ha)	3.09	3.09	3.13 (3.12)	0.13	1.3

資料：USDA「PS&D」
「World Agricultural Production」(12 September 2024)
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(25 September 2024)

図 カナダの直近3か年の生産量等の推移



資料：AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2024.9.25)をもとに農林水産省にて作成

表 カナダ産大豆の輸出量と輸出先国

(輸出量：万t、シェア：%)

2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)			2022/23年度 (2022年8月～2023年7月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	143.9	43.6	中国	128.8	40.5
アルジェリア	58.2	16.6	イラン	49.0	15.4
イラン	54.6	16.5	アルジェリア	36.5	11.5
オランダ	18.5	5.6	イタリア	27.5	8.6
その他	65.7	17.7	その他	69.9	23.9
計	340.9	100.0	計	311.6	100.0

資料：カナダ穀物委員会のデータをもとに農林水産省にて作成

< 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度より 0.7%減少する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が増加（対前年度比 0.3%増）するものの、単収が平年並みに戻り減少（対前年度比 1.0%減）すると見込まれることから、前年度より 0.7%減の 20.7 百万トンとなるも、史上 2 番目に高い見込み。

全国農業気象月報（2024.9.5）によれば、8 月は生育に適した気温となり、農地の土壌水分も十分であり、大豆の開花や結実に適しているとみられる。8 月末、黒竜江省等では登熟期を迎えている。

【需要状況】USDAによれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、国内の畜産物の需要増を受けて大豆粕の需要が増加することから、前年度より 4.2%増の 126.8 百万トンと史上最高の見込み。ただし、業界情報によれば、直近では中国の経済成長が鈍化し、豚肉の価格が低迷する中、中国政府は 3 月から国内の養豚飼育数の生産目標を減らす供給過剰対策を開始しており、飼料用需要の減少につながるの見方もある。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の前年度より 2.2%減の 109.0 百万トンとなるも、引き続き高水準を維持する見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～7 月の輸入量は、前年同期より 1.5%減の 5,833.7 万トン。内訳は、ブラジル 4,355.8 万トン（74.7%）、米国 1,263.3 万トン（21.7%）、カナダ 99.2 万トン（1.7%）の順。ブラジルと米国を合わせたシェアが 9 割以上を占めている。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 7 月号」によると、7 月の輸入価格（山東省の輸入大豆価格）は、前月（4,440 元/トン）から小幅に上昇し、4,480 元/トンとなった。7 月の国内価格は、5,420 元/トンと前月（5,380 元/トン）から小幅に上昇し、食用大豆は季節的に消費が少なく、前年度の大豆が備蓄から販売されている時期であり、価格は安定している。

USDAによれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、生産量と輸入量の合計が消費量を上回っていることを受けて、前年度より 6.5%増の 45.7 百万トンと史上最高の見込み。2024/25 年度の期末在庫率は、前年度より 0.8 ポイント増の 36.0%となる見込み。

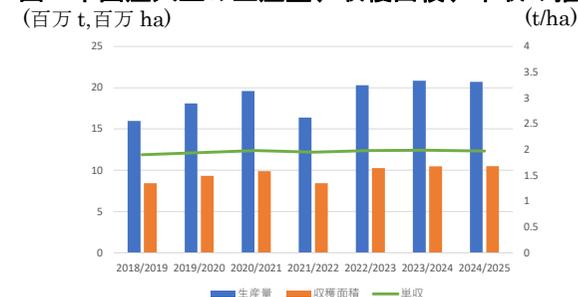
大豆－中国

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.3	20.8	20.7 (20.5)	-	▲ 0.7
消費量	117.5	121.7	126.8 (127.4)	-	▲ 4.2
うち搾油用	96.0	99.0	103.0 (105.4)	-	▲ 4.0
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-
輸 入 量	104.5	111.5	109.0 (107.0)	-	▲ 2.2
期末在庫量	32.3	42.9	45.7 (43.9)	-	▲ 6.5
期末在庫率	27.5%	35.2%	36.0% (34.4%)	-	0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.24	10.47	10.50 (8.40)	-	0.3
単収(t/ha)	1.98	1.99	1.97 (1.95)	-	▲ 1.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2024)
IGC「Grain Market Report」(15 August 2024)

図 中国産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA「PS&D」(2024.9.12)をもとに農林水産省にて作成

表 中国の大豆輸入量と輸入先国

(輸入量：万トン、シェア：%)

2024年 1～7 月			2023年 1月～2023年12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	4,355.8	74.7	ブラジル	6,993.0	70.7
米国	1,263.3	21.7	米国	2,374.3	24.0
カナダ	99.2	1.7	アルゼンチン	199.2	2.0
ロシア	45.6	0.8	カナダ	146.6	1.5
アルゼンチン	32.9	0.6	ロシア	129.3	1.3
ベナン	20.6	0.4	南アフリカ	14.7	0.1
その他	16.4	0.1	その他	38.6	0.4
計	5,833.7	100	計	9,895.7	100

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< アルゼンチン > 2024/25 年度の生産量は、前年度より 6.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 11 月以降作付けが開始される 2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、大豆の収益性が高まることで農家がとうもろこしから大豆へ作付けをシフトさせる見通しを受けて、前年度から 6.0%増の 51.0 百万トンの見込み。

なお、2023/24 年度の実産量は、干ばつとなった前年度より 92.4%増の 48.1 百万トンの見込み。1 月から 2 月初旬にかけて高温乾燥型の天候が続いたものの、その後の降雨により作柄が改善した。

ブエノスアイレス取引所週報（2024.7.3）によれば、7 月 3 日現在、大豆の収穫は完了。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、増産に伴い搾油量が增加することから、前年度比 11.3%増の 47.6 百万トンの見込み。なお、アルゼンチンは、丸大豆の搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、世界有数の大豆油及び大豆粕の輸出国である。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、パラグアイ産の輸入増の見込みを受けて前月予測から 0.5 百万トン上方修正されたものの、国内生産量の増加に伴い輸入需要が減少することから、前年度より 16.7%減の 6.0 百万トンの見込み。

2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、世界全体の供給量の引上げによる競争の激化を受けて前年度より 13.5%減の 4.5 百万トンとなるも、中国向け輸出が引き続き堅調に推移する見通し。

なお、2024 年 1～7 月の輸出量は、前年度の干ばつによる減産からの回復を受けて 353.6 万トンで前年同期（82.4 万トン）の約 4 倍。輸出先は、中国 323.7 万トン（91.5%）、米国 4.4 万トン（1.2%）、チリ 3.7 万トン（1.0%）の順で、4 月以降、中国向け輸出が急増している。

2023 年 12 月 10 日に右派のミレイ政権が誕生した。同 12 日に経済相は通貨ペソの公式レートを現行の 1 ドル＝350 ペソから 50%以上切り下げ、1 ドル＝800 ペソにした。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、輸出税を大豆に最大 33%、大豆油及び大豆粕に 31%を設定。ミレイ政権においても、輸出税は引き続き維持されている。

「OIL WORLD Weekly」（2024.8.23）によれば、アルゼンチンのとうもろこし及び大豆の主要輸送経路であるパラナ川の水位が低下しており、主要輸出港ロサリオ港への河川輸送に問題が生じている。

大豆－アルゼンチン

(単位:百万トン)

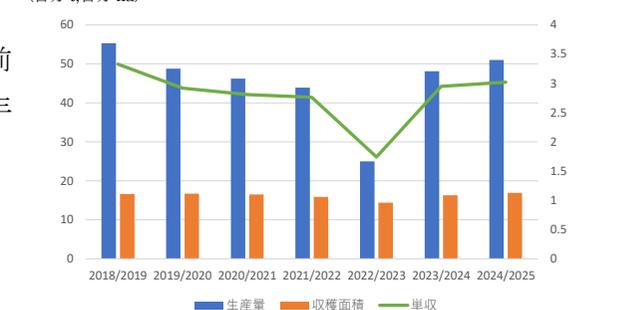
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	25.0	48.1	51.0 (51.5)	-	6.0
消費量	36.6	42.8	47.6 (48.5)	-	11.3
うち搾油用	30.3	35.5	40.0 (42.0)	-	12.7
輸 出 量	4.2	5.2	4.5 (6.1)	-	▲ 13.5
輸 入 量	9.1	7.2	6.0 (5.4)	0.5	▲ 16.7
期末在庫量	17.0	24.4	29.3 (11.4)	0.5	20.1
期末在庫率	41.7%	50.8%	56.1% (20.9%)	1.0	5.4

(参考)

収穫面積(百万ha)	14.40	16.30	16.90 (15.87)	-	3.7
単収(t/ha)	1.74	2.95	3.02 (3.25)	-	2.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 August 2024)

図 アルゼンチン産大豆の実産量、収穫面積、単収の推移
(百万 t,百万 ha)



資料：USDA 「PS&D」(2024.9.12) をもとに農林水産省にて作成

表 アルゼンチンの大豆輸出量と輸出先国

(単位:万 t)

2024年7月		2024年1月～7月	
国名	輸出量	国名	輸出量
中国	33.5	中国	323.7
チリ	0.5	アメリカ	4.4
アメリカ	0.2	チリ	3.7
-	-	ペルー	2.1
その他	3.0	その他	19.7
計	37.2	計	353.6

資料：アルゼンチン国家統計局 (INDEC) をもとに
農林水産省にて作成

(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について (2024/25年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	24年6月～25年5月	24年9月～25年8月	24年8月～25年7月	24年9月～25年8月
カナダ	24年8月～25年7月			24年8月～25年7月
豪州	24年10月～25年9月		25年3月～25年2月	
EU	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
中国	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月
ロシア	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		24年9月～25年8月
ウクライナ	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
ブラジル		25年3月～26年2月	25年4月～26年3月	24年10月～25年9月
アルゼンチン	24年12月～25年11月	25年3月～26年2月		24年10月～25年9月
タイ			25年1月～12月	
インド	24年4月～25年3月		24年10月～25年9月	
ベトナム			25年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
 例えば、2024/25年度は、米国の小麦では2024年6月～2025年5月、ブラジルのとうもろこしでは2025年3月～2026年2月です。
 なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国

1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
------------	-----	-----	-----

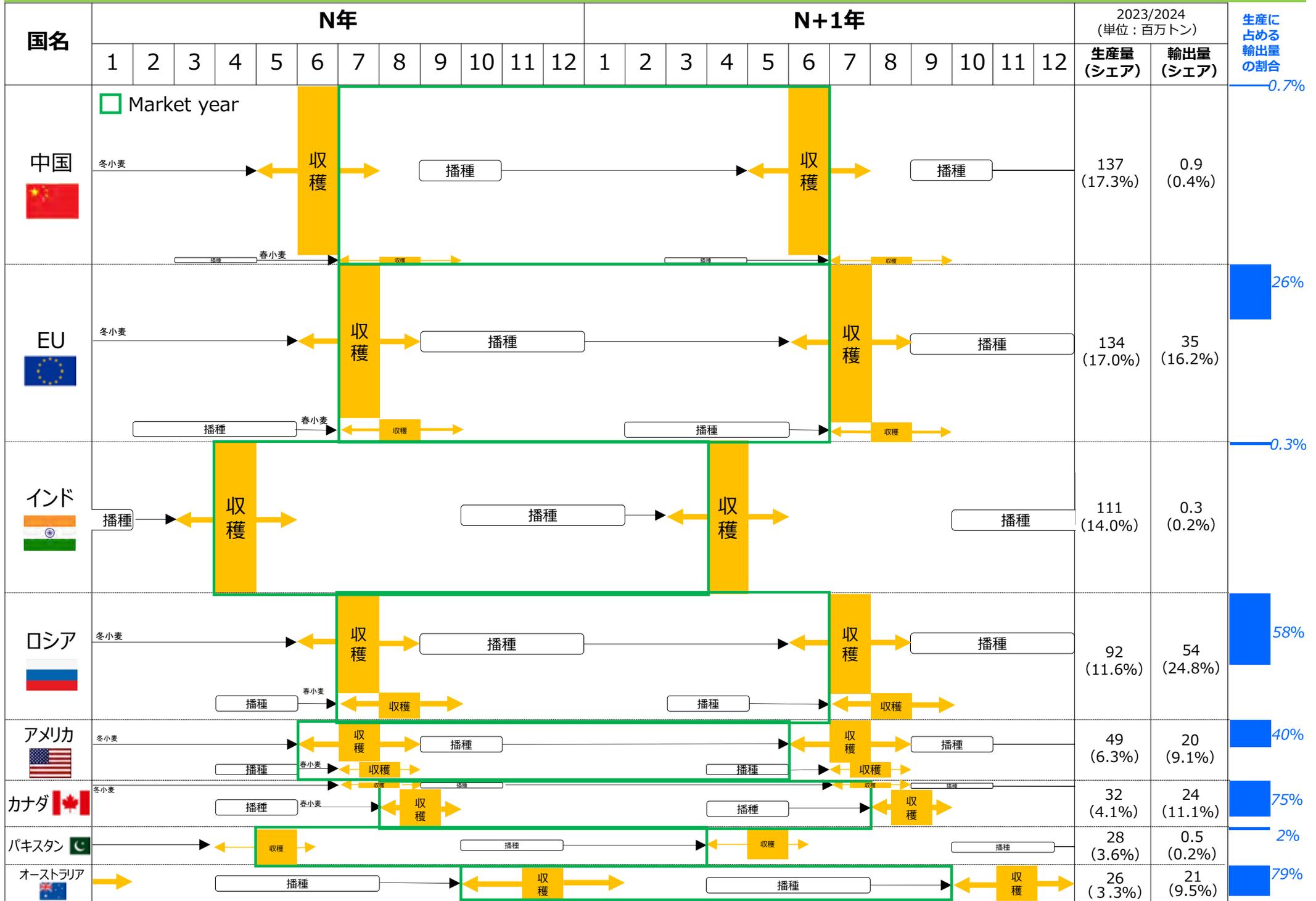
1斤	500g	重量	中国
----	------	----	----

華氏→摂氏 : $^{\circ}\text{C} = (^{\circ}\text{F} - 32) \div 1.8$			
---	--	--	--

(参考3)各国のクロープカレンダー一覧(主要品目毎)

主要生産国のクロープカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



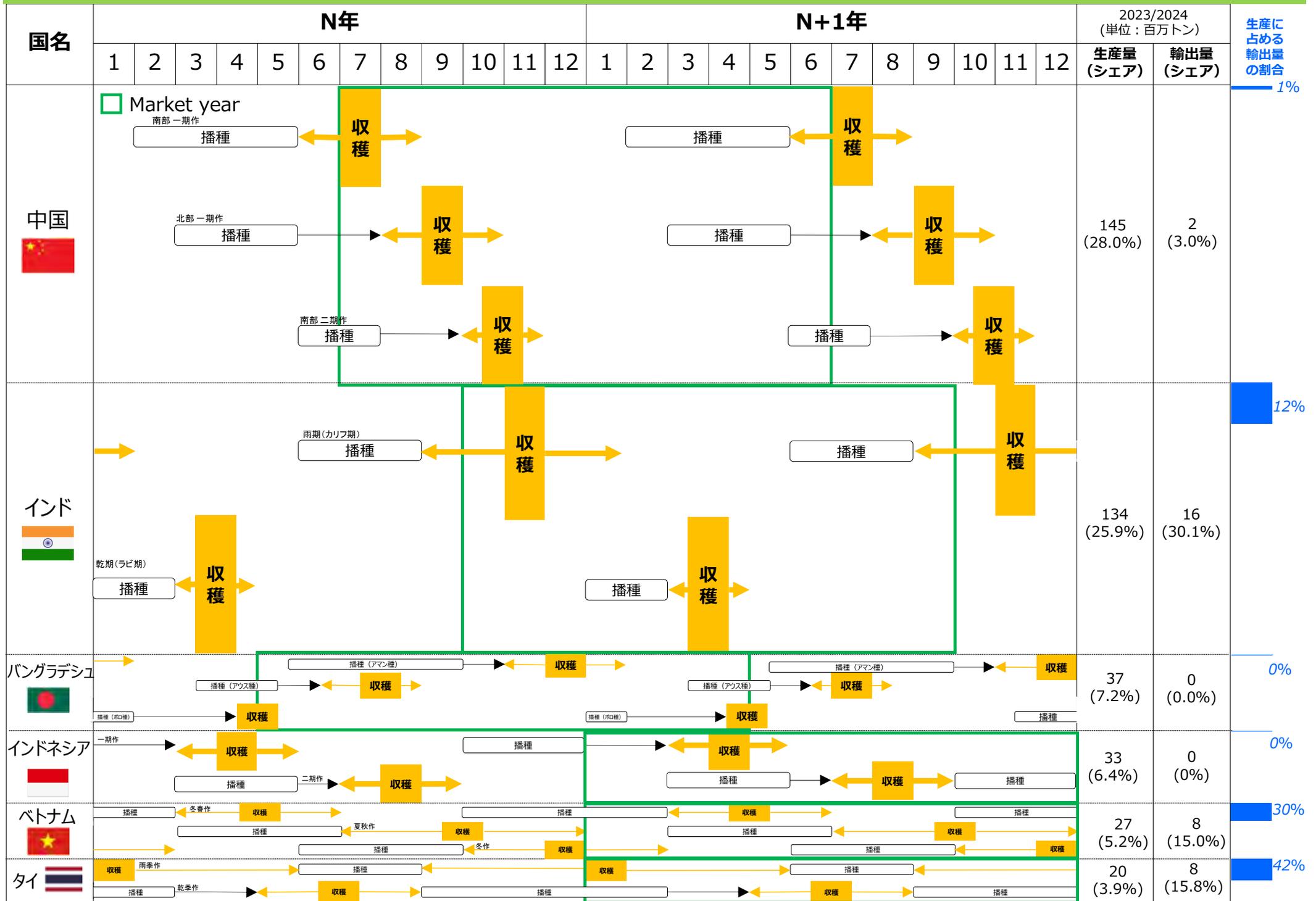
資料 : AMIS 「Supply and demand balances manual」, USDA 「PS&D」 (2024.5)

注 : シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。
冬小麦と春小麦の収穫量の割合は便宜的にデュラム小麦は全て春小麦としている。

その他 :

主要生産国のクロープカレンダー(米)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料: AMIS 「Supply and demand balances manual」, USDA 「PS&D」 (2024.5) 注: シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。 その他: 122 (23.5%) 19 (36.1%)

主要生産国のクロープカレンダー(とうもろこし)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

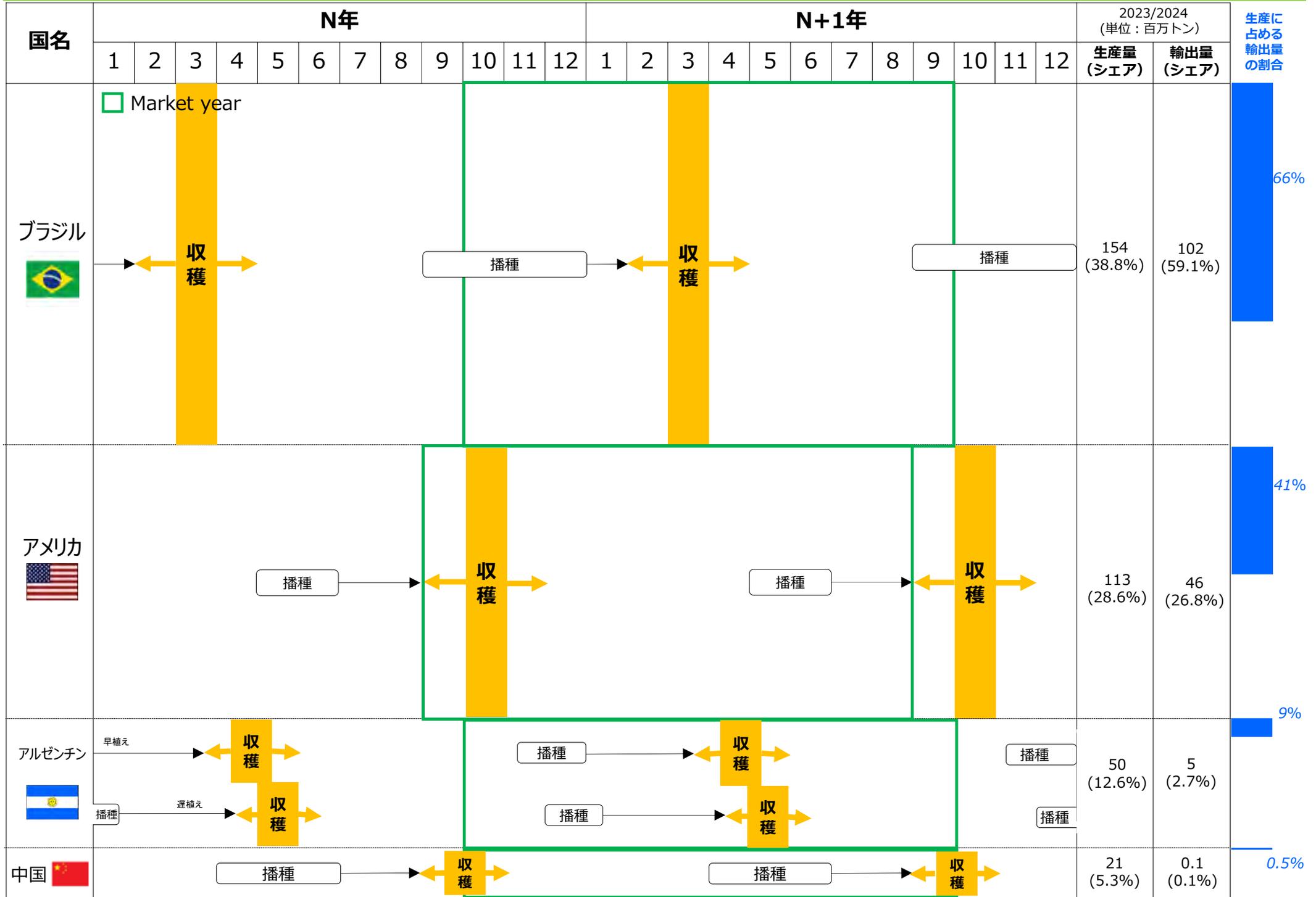
国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位:百万トン)		生産に 占める 輸出量 の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出量 (シェア)	
アメリカ 	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> Market year </div> 播種 → 収穫 (9-10月)												390 (31.7%)	55 (27.7%)	14%												
中国 	播種 (春作) → 収穫 (8-9月) 播種 (夏作) → 収穫 (5-6月)												289 (23.5%)	0 (0.0%)	0%												
ブラジル 	夏とうもろこし 播種 → 収穫 (10-11月) 冬とうもろこし 播種 → 収穫 (5-6月)												122 (9.9%)	50 (25.3%)	41%												
EU 	播種 → 収穫 (9-10月)												61 (5.0%)	4 (2.1%)	7%												
アルゼンチン 	播種 → 収穫 (10-11月)												53 (4.3%)	38 (19.3%)	72%												
インド 	乾期(ラビ期) 播種 → 収穫 (1-2月) 雨期(カリフ期) 播種 → 収穫 (7-8月)												38 (3.1%)	0.8 (0.4%)	2%												

資料 : AMIS 「Supply and demand balances manual」, USDA 「PS&D」 (2024.5) 注 : シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。

その他 : 276 (22.5%) 50 (25.2%)

主要生産国のクロープカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料 : AMIS 「Supply and demand balances manual」, USDA 「PS&D」 (2024.5) 注 : シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。 その他 :

59
(14.8%) 20
(11.3%)

主要生産国のクロープカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位：百万トン)		生産に 占める 輸出品 の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出品 (シェア)	
EU 	Market year						収穫	播種					収穫	播種					20 (22.6%)	0.6 (3.3%)	3%						
カナダ 						播種	収穫					播種	収穫					19 (21.3%)	7 (39.3%)	35%							
中国 	収穫						播種	収穫				播種				15 (17.4%)	0 (0%)	0%									
インド 	収穫						播種				収穫				播種				13 (14.1%)	0 (0%)	0%						
オーストラリア 						播種	収穫					播種	収穫					6 (6.4%)	5 (27.6%)	81%							
ウクライナ 	収穫		播種					播種				収穫	播種					4 (5.0%)	3 (20.5%)	78%							
ロシア 						播種	収穫					播種	収穫					4 (4.8%)	0.8 (4.8%)	19%							

資料：AMIS「Supply and demand balances manual」, USDA「PS&D」(2024.5)

注：シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している

その他：7 (8.4%) 0.7 (4.5%)